

学校法人西野学園

札幌医学技術福祉歯科専門学校

介護福祉士科 シラバス



- 教育課程(カリキュラム)
- 科目系統図
- 1年次シラバス(2019年入学生)
- 2年次シラバス(2018年入学生)

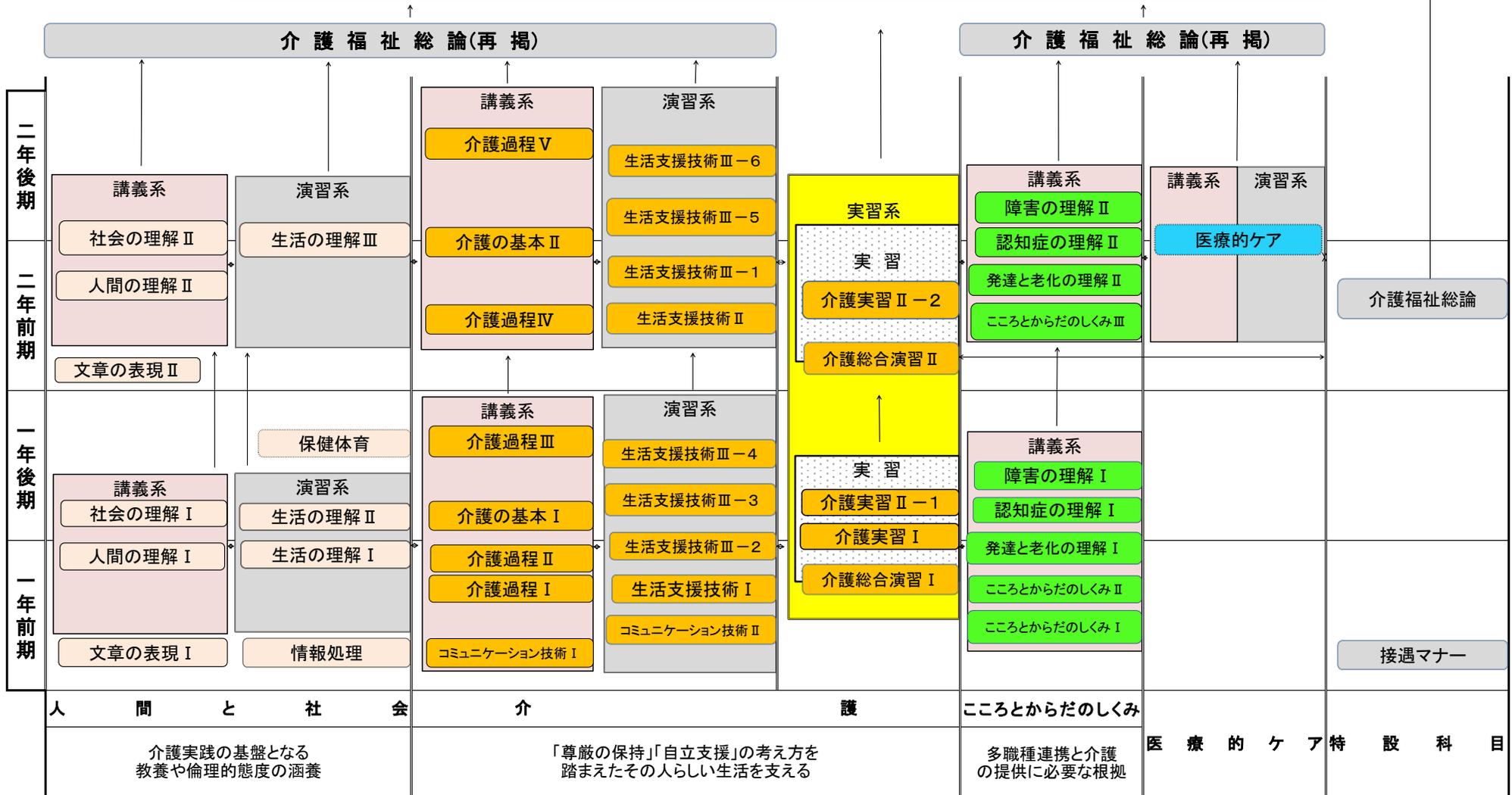
平成31年度 介護福祉士科 カリキュラム【2年課程】

2018・2019年度入学生

項目	授業科目	時数	1年次		2年次		合計
			前期	後期	前期	後期	
人間と社会	人間の理解Ⅰ	30	30				30
	人間の理解Ⅱ	30			30		30
	社会の理解Ⅰ	30	30				30
	社会の理解Ⅱ	30			30		30
	生活の理解Ⅰ	30	30				30
	生活の理解Ⅱ	30		30			30
	生活の理解Ⅲ	30			30		30
	保健体育	30		30			30
	情報処理	30	30				30
	文章の表現Ⅰ	30	30				30
	文章の表現Ⅱ	30			30		30
介護	介護の基本Ⅰ	120	60	60			120
	介護の基本Ⅱ	60			30	30	60
	コミュニケーション技術Ⅰ	30	30				30
	コミュニケーション技術Ⅱ	30		30			30
	生活支援技術Ⅰ	90	45	45			90
	生活支援技術Ⅱ	30			30		30
	生活支援技術Ⅲ-1	30			30		30
	生活支援技術Ⅲ-2	30		30			30
	生活支援技術Ⅲ-3	30	30				30
	生活支援技術Ⅲ-4	30		30			30
	生活支援技術Ⅲ-5	30				30	30
	生活支援技術Ⅲ-6	30			30		30
	介護過程Ⅰ	30	30				30
	介護過程Ⅱ	30	30				30
	介護過程Ⅲ	30		30			30
	介護過程Ⅳ	30			30		30
	介護過程Ⅴ	30				30	30
	介護総合演習Ⅰ	90	45	45			90
	介護総合演習Ⅱ	60			60		60
	介護実習Ⅰ	120	120				120
介護実習Ⅱ-1	96		96			96	
介護実習Ⅱ-2	240			240		240	
こころとからだのしくみ	発達と老化の理解Ⅰ	30	30				30
	発達と老化の理解Ⅱ	30			30		30
	認知症の理解Ⅰ	30	30				30
	認知症の理解Ⅱ	30			30		30
	障害の理解Ⅰ	30		30			30
	障害の理解Ⅱ	30			30		30
	こころとからだのしくみⅠ	30	30				30
	こころとからだのしくみⅡ	60	30	30			60
	こころとからだのしくみⅢ	30			30		30
医療的ケア	医療的ケア(講義)	70				70	70
	医療的ケア(演習)	30				30	30
特科 設目	介護福祉総論	90				90	90
	接遇マナー	30	30				30
時間数合計			1,176		970		2,146

介護福祉士科 科目系統図 (2018・2019年度入学生)

介護福祉士国家試験



人間の理解 I (全15回)	介護福祉士科	1年	前期
	担当教員	本間章哲	

●授業概要

★この授業のねらい

人間の尊厳について、人間の多面的（身体的・心理的・社会的）な理解や人間関係での自己理解、他者理解を図り、人権や権利擁護についての日本や諸外国の歴史的経緯を学びます。更に、介護福祉士に求められる人権尊重や権利擁護について、自立（自律）支援の視点でとらえることにより倫理的課題について理解します。

★仕上がり像

- 1 「人間」の理解を図ることを基礎として、人間の尊厳を保持し人権尊重・権利擁護とはどういうことか説明できる。
- 2 介護福祉の対象者が自立、また自律した生活を送れるように支援するための視点・視座を上げることができると。
- 3 介護福祉士としての職業倫理観を述べるができる。

●授業内容

1	人間の理解（人間の多面的理解）		
2	人間の尊厳と個人の尊厳		
3	人権尊重		
4	自立の概念		
5	自立と権利擁護		
6	権利擁護の萌芽（歴史的経緯）		
7	権利侵害の現状と背景		
8	権利擁護、尊厳の保持に関する現状（諸規定）		
9	権利擁護、尊厳の保持に関する現状（制度政策）		
10	介護における尊厳の保持（職業倫理）		
11	対象者を理解する視座		
12	介護実践におけるチームマネジメントの意義		
13	ケアを展開するためのチームマネジメント		
14	人材育成・自己研鑽のためのチームマネジメント		
15	組織の目標達成のためのチームマネジメント		

●成績評価のしかた

定期試験（70点）、課題（20点）、授業への取り組み（10点）で総合的に評価します。

●教科書・参考図書

教科書： 介護福祉士養成講座編集委員会編 「最新 介護福祉士養成講座1 人間の理解」（中央法規， 2019）
 参考図書： 介護福祉士養成講座編集委員会編 「最新 介護福祉士養成講座 『2 社会の理解』 『3 介護の基本Ⅰ』 『4 介護の基本Ⅱ』 『5 コミュニケーション技術』 『6 生活支援技術Ⅰ』 『7 生活支援技術Ⅱ』 『8 生活支援技術Ⅲ』 『13 認知症の理解』 『14 障害の理解』」（中央法規， 2019）
 適宜、資料を配布します。

●履修へのアドバイス

講義のほか、演習授業も行います。積極的授業参加を期待します。

社会の理解 I	(全15回)	介護福祉士科	1年	前期
		担当教員	中島 伸晃	

●授業概要

★この授業のねらい

福祉の専門職として、社会福祉に関わる社会の現状の認識と、政策や諸制度の全体像について知っておかなければなりません。

個人が自立した生活を営むということを尊重し、個人・家族・近隣・地域・社会単位で人間を捉える視点を養うことと、利用者の生活と社会背景を関係づけ、心身の状況に応じたサービス提供の根拠となる制度を解釈できるようにするための学習をねらいとします。

★仕上がり像

- 1 社会と生活のしくみについて説明することができる。
- 2 地域共生社会の実現に向けた施策等について挙げるができる。
- 3 社会保障制度の要点について挙げるができる。特に、介護保険制度や障害者自立支援制度に関しては、詳細内容について説明することができる。
- 4 介護の実践において関連のある諸施策について挙げるができる。

●授業内容

1	社会と生活のしくみ		
2	地域共生社会の実現に向けた制度や施策		
3	社会保障制度の概要		
4	社会保険（年金保険・医療保険）		
5	社会保険（雇用保険・労災保険）		
6	社会保険（介護保険①）		
7	社会保険（介護保険②）		
8	社会福祉（障害者保健福祉①）		
9	社会福祉（障害者保健福祉②）		
10	社会福祉（社会手当等）		
11	社会福祉（その他の制度）		
12	公的扶助（生活保護等）		
13	介護実践関連諸制度（権利擁護等）		
14	介護実践関連諸制度（保健医療等）		
15	介護実践関連諸制度（住生活等）		
	定期試験		

●成績評価のしかた

定期試験（筆記70点）、課題レポート（ルーブリック評価15点）、授業への取り組み（ルーブリック評価15点）で総合的に評価します。

●教科書・参考図書

教科書：介護福祉士養成講座編集委員会編「最新 介護福祉士養成講座2 社会の理解」（中央法規，2019）

参考図書：中央法規出版編集部編「七訂 介護福祉用語辞典」（中央法規，2015）
：ミネルヴァ書房編集部編「社会福祉小六法2019」（ミネルヴァ書房，2019）

その他、講義プリント（毎回配布）を使用します。

●履修へのアドバイス

(1)講義だけでなく、予習・復習をすることで知識の定着を図りましょう。

(2)日頃からニュースや新聞記事に関心を持ちましょう。

生活の理解 I (全15回)	介護福祉士科	1年	前期
	担当教員	上原子 忍	

●授業概要

★この授業のねらい

家事支援の中の調理支援について、利用者に対し生命や健康を維持するための大切な支援として捉え、安全に楽しく食べることと同時に毎日の食事に関心をもってもらい、自立への一歩となるような支援の方法と技術を習得します。

★仕上がり像

- 1 一人ひとりの利用者の嗜好を理解し、必要な栄養を取り入れた調理ができる。
- 2 限られた予算と時間を考え、的確な調理ができる。
- 3 利用者にあった食形態を考え、安全な食事を提供することができる。

●授業内容

1	オリエンテーション・調理支援の概要		
2	訪問介護における調理の理解		
3	利用者とともに行うためのアセスメント		
4	栄養バランスを考えた献立の基本		
5	調理実習（主食・米食）（準備）		
6	調理実習（主食・米食）（調理）		
7	調理実習（主食・めん食）（準備）		
8	調理実習（主食・めん食）（調理）		
9	調理実習（主菜）（準備）		
10	調理実習（主菜）（調理）		
11	調理実習（副菜）（準備）		
12	調理実習（副菜）（調理）		
13	調理実習（加工品の応用）（準備）		
14	調理実習（加工品の応用）（調理）		
15	まとめ『調理支援』		
	定期試験		

●成績評価のしかた

定期試験（80％）、授業への取り組み・態度（20％）とし総合的に評価します。

●教科書・参考図書

教科書：介護福祉士養成講座編集委員会編 「最新 介護福祉士養成講座6 生活支援技術 I」
（中央法規，2019年）
参考図書：特別養護老人ホーム諏訪の苑編 「特養ホームがえらんだお年寄りの毎日ごはん」
（雲母（きらら）書房，2013年）

●履修へのアドバイス

適切な身だしなみを心がけましょう。授業開始前に準備を終了し、速やかに授業を開始できるようにしましょう。

生活の理解Ⅱ (全15回)	介護福祉士科	1年	後期
	担当教員	東 道尾	

●授業概要

★この授業のねらい

住環境整備は、本人の自立、家族（介護者）の介護負担など、生活の質に大きな影響を与えます。生活の基盤である「住まい」への理解を深め、広い視野で支援できるような専門職としての基本的な知識を身に付けます。

★仕上がり像

- 1 「住まい」に関わる建築の基礎を説明できる。
- 2 援助すべきニーズを発見して、住環境整備から改善する提案ができる。
- 3 提案内容を簡単な図面やスケッチで表現できる。

●授業内容

1	「住まい」について
2	建築の基礎知識（総論）
3	建築の基礎知識（各論）
4	体の寸法を知る・建物の寸法を知る
5	生活支援と福祉用具の活用
6	高齢者などに配慮した住宅各所の空間構成と住まいの管理
7	高齢者などに配慮した住宅各所の空間構成と実際
8	水回り、建築関連機器のショールーム見学（総論）
9	水回り、建築関連機器のショールーム見学（各論）
10	福祉用具展示ホールの見学
11	高齢者・障害者の多様な住まい
12	住環境整備の事例【Bさん】
13	住宅改修事例（課題について）
14	住宅改修事例（取り組みの実際）
15	課題への助言・まとめ『住まい』

●成績評価のしかた

提出物（見学レポート、住宅改修課題等～80%【提出期限の厳守】
平常点（出席率、授業態度、授業中の記録等）～20%

●教科書・参考図書

【教科書】

教科書：介護福祉士養成講座編集委員会編 「最新 介護福祉士養成講座6 生活支援技術Ⅰ」
（中央法規、2019年）

●履修へのアドバイス

建築というハード面からの援助方法があることを認識しましょう。
観察力、想像力を働かせてニーズを発見する眼を養いましょう。

保健体育 (全15回)	介護福祉士科	1年	後期
	担当教員	坂下 繁	

●授業概要

★この授業のねらい

- 1 運動・スポーツを通して自己の健康保持・増進、体力の向上を目指します。
- 2 各種目の練習、ゲームを通して他者とのコミュニケーションを図り、集団で運動・スポーツをすることの楽しさと意義を体験します。
- 3 各種の技術と理論及びルールを習得します。

★仕上がり像

- 1 仲間と協力し、安全に気をつけながら、運動・スポーツを楽しむことができる。
- 2 各種目の技術、理論、ルールを理解し、戦術・作戦を考え工夫することができる。
- 3 体力の保持・増進ができ、体を動かすことの楽しさを知ることができる。

●授業内容

1	オリエンテーション (授業ガイダンスと導入)		
2	バレーボール 基礎練習(オーバー・アンダーパス)		
3	バレーボール 基礎練習(スパイク・サーブ)		
4	バレーボール 基礎練習(サーブカット)		
5	バレーボール 基礎練習(ゲーム)		
6	バレーボール (ゲーム)		
7	バレーボール (審判)		
8	バレーボール (実技の確認)		
9	バドミントン卓球 サーブ・基本練習		
10	バドミントン卓球 サーブ・各打法練習		
11	バドミントン卓球 応用練習		
12	バドミントン卓球 ゲーム・審判の基本		
13	バドミントン卓球 ゲーム・審判の応用		
14	バドミントン卓球 総まとめ練習		
15	バドミントン卓球 実技の確認		

●成績評価のしかた

- ・実技、授業への取り組み状況等により総合的に評価します。

●教科書・参考図書

- ・必要に応じ、その都度授業の中で紹介します。

●履修へのアドバイス

- ・出席・授業態度を重視します。健康管理をしっかり行い、怪我等にも注意し積極的な参加をしてください。
- ・運動に適した服装 (ジャージ) や身だしなみを考え受講してください。(夏はTシャツ、ハーフパンツも可)
- 靴は、運動に適した上履きを用意してください。
- ※第一回目の授業は、筆記用具・上靴を持参し、更衣を済ませて体育館に集合してください。

情報処理 (全15回)	介護福祉士科	1年	前期
	担当教員	大西 秀樹	

●授業概要

★この授業のねらい

いろいろな業務でパソコンが利用されていますが、その中でもプレゼンテーションソフトとワープロソフトは基本的に利用されています。このため体裁が整ったスライドや文書を作成する操作をマスターし、活用できることは大変有益です。

本科目では、プレゼンテーション実習とワードを利用したビジネス文書を効率よく体裁を整えて作成する手法を学び、卒業後の業務に活用できる実力を養うことを目的とします。

★仕上がり像

- 1 初めての人でもパソコンを操作することができる。
- 2 Word、PowerPointを使いこなすことができる。
- 3 インターネットなども活用でき、情報検索や処理ができる。
- 4 職場でパソコンを利用し、専門の業務に役立たせることができる。

●授業内容

1	Windowsの基本操作とファイル管理	16	
2	インターネットの利用法と活用	17	
3	Wordの起動と文字入力	18	
4	文章の入力、保存、編集、印刷	19	
5	体裁を整えた文書の作成	20	
6	入力速度測定、文書作成演習1	21	
7	表の作成	22	
8	表の編集	23	
9	段組み	24	
10	文書作成演習2	25	
11	PowerPointの起動とテキスト入力	26	
12	スライドの作成演習1	27	
13	スライドの作成演習2	28	
14	プレゼンテーション(発表)	29	
15	プレゼンテーション(発表)	30	
	定期試験		

●成績評価のしかた

Wordの提出課題(45%)、発表(33%)およびWordの実技試験(22%)を総合して評価します。

●教科書・参考図書

プリント および
実教出版編修部編 「Windows 8対応 30時間でマスター Office 2013」
(実教出版, 2014)

●履修へのアドバイス

文章の表現 I (全15回)	介護福祉士科	1年	前期
	担当教員	吉川 慶子	

●授業概要

★この授業のねらい

社会では、日常話したり書いたりする何気ない「言葉」、すなわち国語表現によって自分が評価され、他者とのコミュニケーションも成立します。また、自分が伝えたいことを相手に正確に伝えるためには、客観的なものの見方も必要です。この授業では、思考の幅を広げつつ、文章表現の基礎技術をマスターすることを目標とします。

★仕上がり像

- 1 実習等のレポートを適切に書くことができる。
- 2 自分の意見を過不足なく伝える文章を書くことができる。
- 3 社会で必要とされる国語基礎力を身に付け実践することができる。

●授業内容

1	人に説明する文章「道順」		
2	言葉の機能、伝達とは何か		
3	書くべき内容の発見		
4	原稿用紙の使い方		
5	メモから文章へ「〇月〇日の私」		
6	事実と意見の区別		
7	要約の仕方		
8	要約の実践		
9	事実と意見の関係		
10	意見文「最近のニュースに思うこと」		
11	文表現技術		
12	文章の構想・構成、反論の想定		
13	意見文「自由テーマ」の構想メモ		
14	メモから文章へ「自由テーマ」意見文		
15	推敲、学習のまとめ 定期試験		

●成績評価のしかた

作文等の課題と定期試験により総合的に評価します。

●教科書・参考図書

教科書：吉川慶子著 「国語表現法」

●履修へのアドバイス

しっかり読み取れる濃さの筆記用具、および国語辞典(電子辞書可)を用意してください。

介護の基本 I (全60回)	介護福祉士科	1年	通年
	担当教員	羽山 政弘 ・ 小早川 美帆子 織田 なおみ ・ 藤井 一磨	

●**授業概要**

★この授業のねらい

導入では、介護福祉を学ぶ上での基本的意義や価値・理念について考えます。さらに、自分自身の生活と照らし合わせて、介護福祉の対象となる人々の「生活」について考えます。「生活」の多様性・個別性を深く理解し「その人らしさ」を支えることの大切さを学びます。

介護福祉士の倫理綱領をの重要性を認識し、介護福祉士に求められる「尊厳を支える介護」について、知識・技術・価値・倫理を身に着け、専門職としての職業観を養います。

介護サービスが提供される様々な場を理解するために、複数回の施設見学に出掛けます。介護福祉士としてその場で働く自分を明確にイメージをし、実習や就職等への取り組みと結びつけて学習します。

★仕上がり像

- 1 対人援助職に必要な価値観や倫理観を養い、論じることができる。
- 2 介護を必要とする人々の「生活」について理解し、述べることができる。
- 3 「尊厳ある介護」「自立に向けた介護」について深く考察し、解説することができる。
- 4 社会福祉士及び介護福祉士法の内容を深く理解し、介護福祉士の職業倫理やその視点を論じることができる。
- 5 様々な介護サービスの種類とその特性を理解し、介護福祉士の働く場をイメージ化できる。

●**授業内容**

1	オリエンテーション	21	介護職が行う生活支援～相談援助と意義
2	生活とは何か	22	介護職が行う生活支援～その他の支援
3	生活の特性	23	尊厳を支える介護とは
4	高齢者の暮らしを支える介護	24	QOL
5	障害をもった人の暮らしを支える介護	25	ノーマライゼーション
6	「その人らしさ」とその背景	26	ICF
7	「その人らしさ」を支える介護	27	介護におけるICFのとらえ方
8	生活ニーズの把握	28	ICFの視点に基づくアセスメント
9	生活障害の理解	29	介護実践におけるリハビリテーション
10	生活環境の重要性	30	リハビリテーション専門職との連携
11	中間まとめ（1）	31	中間まとめ（2）
12	介護の成り立ち（日本）	32	介護福祉士を取り巻く状況
13	介護の成り立ち（集団から個別へ）	33	求められる介護福祉士像（歴史的経緯）
14	介護の見方・考え方の変化	34	求められる介護福祉士像の明確化
15	利用者に合わせた生活支援～個別ケア	35	社会福祉士及び介護福祉士法（概要）
16	自立に向けた支援	36	社会福祉士及び介護福祉士法（各項）
17	介護の専門性（介護保険法において）	37	介護福祉士の倫理綱領（概要）
18	介護の専門性（役割変化）	38	介護福祉士の倫理綱領（各項）
19	介護職が行う生活支援～身体介護と意義	39	倫理基準（行動規範）
20	介護職が行う生活支援～家事支援と意義	40	事例検討（施設ケア）

41	事例検討（ケアにおける倫理的判断）	51	高齢者施設見学 まとめと振り返り
42	介護サービスの意味と特性	52	障害福祉サービスの提供の場と特性
43	ケアマネジメントの意味としくみ	53	障害福祉サービスの実際（施設概要）
44	地域連携の意義と目的	54	障害福祉サービスの実際（介護職の役割）
45	地域連携の実際	55	障害福祉サービスの実際（多職種連携）
46	介護保険サービスの提供の場と特性（訪問系）	56	障害者施設見学 まとめと振り返り
47	介護保険サービスの提供の場と特性（通所・入所系）	57	事例検討（在宅ケア）
48	介護保険によるサービスの実際（施設概要）	58	事例検討（在宅ケアにおける倫理的判断）
49	介護保険によるサービスの実際（介護職の役割）	59	事例検討（グループホーム）
50	介護保険によるサービスの実際（多職種連携）	60	総まとめ
			定期試験

●成績評価のしかた

定期試験（60％）、各中間まとめ（30％）、授業態度（発言やその内容等10％）等にて総合的に評価します。

●教科書・参考図書

教科書：介護福祉士養成講座編集委員会編 「最新・介護福祉士養成講座3 介護の基本Ⅰ」
（中央法規，2019年）
介護福祉士養成講座9編集委員会編 「最新・介護福祉士養成講座4 介護の基本Ⅱ」
（中央法規，2017年）
参考図書：ミネルヴァ書房編集部編 「社会福祉小六法 2019 [平成31年版]」
（ミネルヴァ書房，2019年）
：中央法規出版編集部編 「介護福祉用語辞典 7訂」
（中央法規，2015年）
他、授業に関する資料・教科書等

●履修へのアドバイス

「その人らしい生活を支援する専門職」としての基本となる考え方や姿勢を学びます。予・復習を行い、他の科目と並行しての学習が必要です。意欲的・積極的に取り組んでください。

コミュニケーション技術Ⅰ（全15回）	介護福祉士科	1年	前期
	担当教員	吉江 幸子	

●授業概要

★この授業のねらい

介護を必要とする利用者の理解や、支援する際のコミュニケーション技法を理解するとともに、利用者や家族、多職種協働におけるコミュニケーション能力を身に付けることを本授業のねらいとします。

★仕上がり像

- 1 介護実践におけるコミュニケーションの基本を理解し、説明することができる。
- 2 介護場面における利用者・家族とのコミュニケーションについて説明することができる。
- 3 介護実践に携わるチームのコミュニケーションについて説明することができる。

●授業内容

1	介護におけるコミュニケーションの基本（意義・目的）
2	介護におけるコミュニケーションの基本（役割と生活支援）
3	利用者・家族とのコミュニケーション（話を聴くこと）
4	利用者・家族とのコミュニケーション（話を聴く技法）
5	利用者・家族とのコミュニケーション（質問をする）
6	利用者・家族とのコミュニケーション（質問の技法）
7	利用者・家族とのコミュニケーション（感情表現を察する、納得と同意を得る、意欲を引き出す）
8	利用者・家族とのコミュニケーション（感情表現を察する、納得と同意を得る、意欲を引き出すための技法）
9	利用者・家族とのコミュニケーション（相談・助言・指導について）
10	利用者・家族とのコミュニケーション（相談・助言・指導の技法）
11	利用者・家族とのコミュニケーション（意向の調整、複数の利用者の場面について）
12	利用者・家族とのコミュニケーション（意向の調整、複数の利用者の場面での対応法）
13	チームのコミュニケーション（記録について）
14	チームのコミュニケーション（記録による情報共有化）
15	チームのコミュニケーション（報告・連絡・相談・会議）
	定期試験

●成績評価のしかた

定期試験（50%）、課題の提出（20%）、授業の取り組み（30%）で総合的に評価します。

●教科書・参考図書

教科書：介護福祉士養成講座編集委員会編 「最新・介護福祉士養成講座 5
コミュニケーション技術」（中央法規，2019年）
：ミネルヴァ書房編集部編 「社会福祉小六法 2019 [平成31年版]」
（ミネルヴァ書房，2018年）
：中央法規出版編集部編 「介護福祉用語辞典 七訂」
（中央法規，2015年）

参考図書：介護福祉士養成講座編集委員会編 「最新・介護福祉士養成講座 1 人間の理解」
（中央法規，2019年）

●履修へのアドバイス

- 1 授業は次の点を遵守してください。
（1）授業に積極的に参加してください。（2）単独行動、他者の発言・行動を一方向的に批判せず、共感的・受容的態度を示してください。（3）話し合いを独占したり、達成目標に極端に逸脱しないよう心掛けてください。（4）時間のルールを守ってください。極端に長引く、早く終了しすぎないでください。（5）司会・進行へ協力して参加してください。
- 2 授業資料は、保管用ファイルを準備し、時系列に整理してください。

コミュニケーション技術Ⅱ (全15回)	介護福祉士科	1年	後期
	担当教員	高橋 銀司	

●授業概要

★この授業のねらい

利用者の抱えるコミュニケーション障害の状態や原因について理解します。また、日々の生活支援に必要とされるコミュニケーション障害の評価の仕方や対応の基本を踏まえて、コミュニケーション技法を習得します。

さらに、介護現場では1人の利用者に対して複数の介護職が関わります。さまざまな専門職がチームを形成し、総合力で利用者の生活を支えます。そこで、利用者やその家族、他職種協働におけるチームのコミュニケーション能力を身に付けるために必要な知識と方法を学びます。

★仕上がり像

- 1 利用者と援助的なコミュニケーションを実践・展開することができる。
- 2 介護職員間および他職種（専門職）間で協働的な関係を築くことができる。

●授業内容

1	オリエンテーション（コミュニケーション技術Ⅱで学ぶこと）
2	コミュニケーション障害の理解
3	コミュニケーション障害のある利用者への対応（講義）
4	コミュニケーション障害のある利用者への対応（演習）
5	利用者の特性に応じたコミュニケーションの実際（身体障害）
6	利用者の特性に応じたコミュニケーションの実際（認知症）
7	利用者の特性に応じたコミュニケーションの実際（知的障害・精神障害）
8	コミュニケーション障害に関する事例検討（演習Ⅰ）
9	コミュニケーション障害に関する事例検討（演習Ⅱ）
10	チームのコミュニケーション
11	記録について
12	報告・連絡・相談について
13	会議について
14	自己アセスメント
15	課題整理 まとめ
	定期試験

●成績評価のしかた

定期試験、授業時間に課す課題、授業の取り組みなどを総合的に評価します。

●教科書・参考図書

教科書：介護福祉士養成講座編集委員会編 「最新 介護福祉士養成講座5 コミュニケーション技術」（中央法規、2019年）

●履修へのアドバイス

授業で学習するだけでなく、普段の生活から実践力を高めていきましょう。積極的な参加の姿勢が自己の成長につながります。

生活支援技術Ⅰ	(全45回)	介護福祉士科	1年	通年
		担当教員	織田 なおみ・藤井 一磨・瀧井 百合子	

●授業概要

★この授業のねらい

生活支援技術に学ぶ介護技術は、単に介助の方法を学ぶだけではなく、その人が普通に獲得してきた生活様式にも着目し支援することの大切さを学びます。「老い」や「障害」等の表面上に現れるものだけを捉えて支援するのではなく、その人を取り巻く環境（人・物）や周囲との関係（相互関係）性等を多角的に捉えることが大変重要になります。

介護福祉士には、常に介護を必要としている人の生活に関わりながら、その人が持っている潜在能力を発見し、導き出すことが求められます。また、技術には、支援する手法としての観察の技術も含まれます。生活支援技術を身に付けることは、観察のための視点と判断する力、そして支援する技術と一連の過程を学ぶこととなります。

★仕上がり像

- 1 基本的介護技術におけるそれぞれの意義と目的を説明することができる。
- 2 様々日常生活場面での観察の視点を養い、述べるができる。
- 3 介助におけるポイントや留意点を踏まえ、安全で正確な介助を実施することができる。
- 4 その時々々の状況や個性に応じて、支援方法を適切に判断・選択することができる。

●授業内容

1	生活支援技術を学ぶにあたり	24	衣服着脱の意義・目的と留意点
2	ベッドメイキングの意義・目的と留意点	25	衣服の着脱（基本）
3	ベッドメイキング（コーナーへの対応）	26	衣服の着脱（応用）
4	ベッドメイキング（しわへの対応）	27	衣服の着脱（まとめ）
5	ベッドメイキング（まとめ）	28	中間まとめ（2）
6	ボディメカニクス	29	食事の意義・目的と留意点
7	体位変換（移動・移乗）の意義と目的と留意点	30	食事の介助（基本）
8	体位変換（水平・情報）	31	食事の介助（応用）
9	体位変換（仰臥位・側臥位）	32	口腔ケア（基本）
10	体位変換（まとめ）	33	口腔ケア（応用）
11	移動における福祉用具の理解と歩行介助（平地）	34	口腔ケア（まとめ）
12	移動における福祉用具の理解と歩行介助（段差）	35	排泄の意義・目的と留意点
13	中間まとめ（1）	36	排泄介助（基本）
14	車いすの基本理解	37	排泄介助（応用）
15	車いすの操作（基本操作）	38	排泄介助（まとめ）
16	車いすの操作（応用操作）	39	入浴・清潔保持の意義・目的と留意点
17	車いすの操作（屋外等）	40	入浴・清潔保持の介助（清拭）
18	移乗介助（基本動作）	41	入浴・清潔保持の介助（入浴等）
19	移乗介助（応用動作）	42	入浴・清潔保持の介助（まとめ）
20	移乗介助（様々な方法）	42	睡眠の意義・目的と留意点
21	移乗介助（まとめ）	44	睡眠の介助
22	身だしなみを整える意義・目的	45	総まとめ
23	身だしなみの介助		定期試験

●成績評価のしかた

各中間まとめ（筆記・実技）（30%）、定期試験（筆記・実技）（60%）、授業態度（発言やその内容等10%）等にて総合的に評価します。

●教科書・参考図書

教科書：介護福祉士養成講座編集委員会編 「最新・介護福祉士養成講座7 生活支援技術Ⅱ」（中央法規，2019年）
 ：介護福祉士養成講座編集委員会編 「最新・介護福祉士養成講座14 こころとからだのしくみ」（中央法規，2019年）
 他、授業に関する資料・教科書等

●履修へのアドバイス

意義や目的理解のためには「こころとからだのしくみ」等の横断学習が必要です。関連付けを意識して取り組んでください。また、実技演習では適切な身だしなみを心がけ、意欲的・積極的に進めてください。

生活支援技術Ⅲ-2 (全15回)	介護福祉士科	1年	後期
	担当教員	長井 豊貴 横山 みどり	織田 なおみ

●授業概要

★この授業のねらい

介護福祉士は生活介護を通して様々な機能障害を抱える方々と関わります。各機能障害の特性を十分に捉えたうえで適切な介護技術が展開できる事がもとめられます。対象者一人一人がその人らしい生活を営むことができるように機能障害の特性を理解することで介護に応用できる技術を身に付けます。

★仕上がり像

- 1 様々な疾病による機能障害の特性を説明できる。
- 2 「なぜこのような介助をするのか」という介助の根拠を説明でき、各障害に応じて工夫した安全な介護の方法を述べるができる。

1	オリエンテーション、運動機能とは
2	人体構造（骨）
3	人体構造（関節・筋）
4	骨関節疾患（変形性膝関節症）
5	骨関節疾患（腰椎症）
6	骨関節疾患（変形性頸椎症）
7	骨関節疾患（骨粗鬆症）
8	人体構造（神経系）
9	中枢神経障害（脳梗塞・脳出血）
10	中枢神経障害（脊髄損傷）
11	難病の定義
12	難病（疾患）の特徴と支援の課題
13	医療との連携
14	難病のある人の介護上の留意点
15	まとめ
	定期試験

●成績評価のしかた

定期試験70点、平常点（課題提出等）30点で総合的に評価します。

●教科書・参考図書

《教科書》

- 1 介護福祉士養成講座編集委員会編 「最新 介護福祉士養成講座8 生活支援技術Ⅲ」
(中央法規, 2019)
- 2 介護福祉士養成講座編集委員会編 「最新 介護福祉士養成講座14 障害の理解」
(中央法規, 2019)
- 3 介護福祉士養成講座編集委員会編 「最新 介護福祉士養成校座11 こころとからだのしくみ」
(中央法規, 2019)

《その他》

資料として随時プリントを配付します。

●履修へのアドバイス

介護職は利用者の「生活場面」に多く関わります。利用者の病気や特性を踏まえた上で「本人の能力に応じた場面設定と環境づくり」を具体的なケアに組み入れていけるように考えましょう。

生活支援技術Ⅲ－3 (全15回)	介護福祉士科	1年	前期
	担当教員	平野啓介	

●授業概要

★この授業のねらい

介護福祉士は高齢やさまざまな障害を持つ方へ生活支援を実践します。支援が必要となった背景や障害は様々です。これまでの生活が継続されるよう、アセスメントを適切に行い、より良い生活へ向けた支援が不可欠です。

本科目は、特に知的障害、精神障害、発達障害を持つ方に焦点をあて、適切な生活支援技術、制度を活用した生活環境の調整、専門職との協働・連携について学習します。

★仕上がり像

- 1 障害の状態像を理解し、状況に応じて安全・安楽な生活支援を実践することができる。
- 2 日常生活を安心して送る為に必要な制度を理解し、生活環境調整の視点について説明することができる。
- 3 事例検討を通じ、専門職種・機関業務理解と協働・連携支援について説明することができる。

●授業内容

1	障害者福祉の変遷と障害種別の概説		
2	知的障害がある人の理解		
3	精神障害がある人の理解		
4	発達障害がある人の理解		
5	生活支援技術の視点（国際生活機能分類を軸に）		
6	知的障害に応じた介護（アセスメント）		
7	知的障害に応じた介護（計画立案）		
8	知的障害に応じた介護（生活支援技術）		
9	精神障害に応じた介護（アセスメント）		
10	精神障害に応じた介護（計画立案）		
11	精神障害に応じた介護（生活支援技術）		
12	発達障害に応じた介護（アセスメント）		
13	発達障害に応じた介護（計画立案）		
14	発達障害に応じた介護（生活支援技術）		
15	利用者のライフステージ上で関わる実施機関・組織・専門職の理解 定期試験		

●成績評価のしかた

定期試験（70%）、課題の提出（15%）、授業の取り組み（15%）で総合的に評価します。

●教科書・参考図書

1	教科書 (1) 介護福祉士養成講座編集委員会編「最新 介護福祉士養成講座 8 生活支援技術Ⅲ」 (中央法規, 2019年) (2) 介護福祉士養成講座編集委員会編「最新 介護福祉士養成講座 1 4 障害の理解」 (中央法規, 2019年) (3) 中央法規出版編集部編「七訂 介護福祉士用語辞典」(中央法規, 2015年) (4) ミネルヴァ書房編集部編「社会福祉小六法 2019 [平成31年度版]」 (ミネルヴァ書房, 2019年)
2	参考図書は適宜紹介します。

●履修へのアドバイス

- 1 予・復習のため、資料等を保管するファイルを準備してください。制度や専門職・機関、支援技術の特徴が異なりますので、他科目の横断学習と復習が不可欠です。
- 2 普段の生活（ボランティア等を含む）から福祉分野、話題に関心を持ちましょう。

生活支援技術Ⅲ－４ (全15回)	介護福祉士科	1年	後期
	担当教員	干場 有理子	

●授業概要

★この授業のねらい

介護現場において、認知症のある人とのかかわりは必要不可欠です。そのため、この科目では他科目で学習した内容を振り返りながら、認知症介護の原則やかかわり方、介護方法を学びます。また、認知症のある人を全体的に捉え、認知症の人が生活を継続できるための支援を介護実習の振り返りや事例を通して、具体的に考えられるよう進めていきます。

★仕上がり像

- 1 認知症の人を介護するための必要な支援について述べるができる。
- 2 他科目で学習した内容や実習での体験から認知症の人を全体的に捉えることができる。
- 3 事例を通して、認知症のある人が生活を継続できるための支援を具体的に説明することができる。
- 4 グループワーク等の演習を通して、自身の考えを述べるができる。

●授業内容

1	認知症の人の理解（高齢者）		
2	認知症の人の理解（若年者）		
3	認知症介護の基本視点		
4	認知症介護の原則		
5	認知症の人とのコミュニケーション(基本)		
6	認知症の人とのコミュニケーション(演習)		
7	薬物療法と非薬物療法		
8	認知症介護のアセスメント（方法）		
9	認知症介護のアセスメント（実践）		
10	認知症介護のアセスメント（振り返り）		
11	生活支援の展開（方法）		
12	生活支援の展開（実践）		
13	生活支援の展開（振り返り）		
14	連携と協働		
15	まとめ		
	定期試験		

●成績評価のしかた

定期試験（80％）、授業に課す課題（10％）、平常点（10％）で総合的に評価します。

●教科書・参考図書

教科書：介護福祉士養成講座編集委員会編 「最新・介護福祉士養成講座 8 生活支援技術Ⅲ」
 （中央法規， 2019年）
 ：介護福祉士養成講座編集委員会編 「最新・介護福祉士養成講座 1 2 認知症の理解」
 （中央法規， 2019年）
 ：介護福祉士養成講座編集委員会編 「最新・介護福祉士養成講座 1 1 発達と老化の理解」
 （中央法規， 2019年）
 適宜、資料を配付しますので、ファイルに整理してください。

●履修へのアドバイス

グループワーク等演習の多い授業となります。主体的に取り組み、視野と思考を広げましょう。認知症の人にはその場しのぎの対応では支援とはいえません。認知症の症状を中心に考えるのではなく、認知症のある『人』に視点をおき、その『人』を中心に支援を考える必要があります。

介護過程 I (全15回)	介護福祉士科	1年	前期
	担当教員	白府 忍	

●授業概要

★この授業のねらい

介護福祉士には専門知識・技術を根拠とした、客観的で科学的な思考過程の展開能力が求められます。

ここでは、このような介護過程の展開に基づいた生活支援が、利用者の「尊厳を守るケア」「個別ケア」を実現することを理解します。

また本授業では、介護過程の「全体像」と「アセスメント」に重点を置き学習を進めていきます。

★仕上がり像

- 1 介護過程の意義と目的を説明できる。
- 2 介護過程の展開のプロセスを説明できる。
- 3 介護過程の全体像のうち、アセスメントとは何か説明できる。

●授業内容

1	課題解決のための思考		
2	介護過程の意義・目的		
3	介護過程の理解（全体像）		
4	アセスメントとは（情報収集）		
5	アセスメントとは（解釈・統合化）		
6	介護過程と記録（意義と目的）		
7	介護過程と記録（実際）		
8	情報収集の目的		
9	基本的な情報とその必要性		
10	基本的な情報とまとめ方		
11	ICFに基づくアセスメント		
12	ICFに基づくアセスメント（具体的方法）		
13	情報収集の方法と留意点		
14	アセスメントの実際		
15	アセスメントの実際（具体的方法）		
	定期試験		

●成績評価のしかた

定期試験（60％）、授業に課す課題（20％）、提供物（20％）で総合的に評価します。

●教科書・参考図書

教科書：介護福祉士養成講座編集委員会編 「最新・介護福祉士養成講座9 介護過程」
（中央法規，2019年）

参考図書：ミネルヴァ書房編集部編 「社会福祉小六法 2019 [平成31年版]」
（ミネルヴァ書房，2019年）

：ミネルヴァ書房編集委員会編 「介護福祉用語辞典 7訂」
（ミネルヴァ書房，2015年）

：石野育子編 「最新介護福祉全書7 [第3版] 介護過程」 （メヂカルフレンド社，2014年）

●履修へのアドバイス

本科目は、介護過程を学ぶ第1段階となります。介護過程は、介護を行う上で必要不可欠な科目であり、実習とも関連します。まずは、介護過程とは何か理解し、しっかりと身につけられるよう主体的に取り組みましょう。

介護過程Ⅱ (全15回)	介護福祉士科	1年	前期
	担当教員	白府 忍	

●授業概要

★この授業のねらい

介護過程を展開することにより、客観的な根拠に基づく介護の実践が可能になります。本授業では、介護過程におけるアセスメントについて基本的な知識を身に付けます。さらに演習により、介護過程を展開する方法を具体的に学習します。

★仕上がり像

介護保険法に基づく、ケアマネジメントと介護サービスを提供するための個別援助計画の関係性について説明できる。

●授業内容

1	授業の進め方・アセスメントとは		
2	アセスメントとは		
3	ニーズ抽出の考え方		
4	ニーズ抽出の考え方と方法		
5	生活上の課題について		
6	事例の演習（特養でのアセスメント）		
7	事例の演習（特養での課題）		
8	事例の演習（特養での計画）		
9	事例の演習（障害者施設でのアセスメント）		
10	事例の演習（障害者施設での課題）		
11	事例の演習（障害者施設での計画）		
12	事例の演習（老健でのアセスメント）		
13	事例の演習（老健での課題）		
14	事例の演習（老健での計画）		
15	まとめ 定期試験		

●成績評価のしかた

定期試験（60％）、授業に課す課題（20％）、提出物（20％）を総合的に評価します。

●教科書・参考図書

教科書：介護福祉士養成講座編集委員会編 「最新・介護福祉士養成講座 9 介護過程」
（中央法規， 2019年）
参考図書：ミネルヴァ書房編集部編 「社会福祉小六法 2019 [平成31年版]」
（ミネルヴァ書房， 2019年）
：ミネルヴァ書房編集委員会編 「介護福祉用語辞典 7訂」
（ミネルヴァ書房， 2015年）
：介護福祉士養成講座編集委員会編 「最新・介護福祉士養成講座 1～8、
10～14」
（中央法規， 2019）

●履修へのアドバイス

- 1 本科目は、介護実習を行う上で不可欠な科目です。他科目との横断学習が前提となります。
- 2 資料等を保管するファイルを準備してください。

介護過程Ⅲ (全15回)	介護福祉士科	1年	後期
	担当教員	織田 なおみ	

●授業概要

★この授業のねらい

介護過程Ⅰ・Ⅱで学習内容を踏まえ、実際に介護計画（個別援助計画）立案について学びます。計画立案のためには、対象となる人（ケース）の課題を明確にし、課題の明確化には、情報の解釈・関連づけ・統合化を図り、その関係性を専門的観点から明らかにする必要があることを理解します。

明確化した課題に対して介護計画（個別援助計画）を立案しますが、立案と内容の検討にはチームアプローチが必要です。チームで目標を共有し、利用者が望む生活の実現に向けて介護福祉士として具体的にどのように支援するかを学びます。

★仕上がり像

- 1 そのケースにとっての情報の意味を理解し、複数の情報の関係性を捉え整理することができる。
- 2 収集した情報を解釈し関係性を明らかにした上で、課題を明確化することができる。
- 3 利用者の望む生活に向けて介護計画（個別援助計画）を立案することができる。
- 4 チームアプローチにおける介護福祉士の役割を説明することができる。

●授業内容

1	チームアプローチにおける介護福祉士の役割		
2	情報の解釈・関連付け・統合化とは		
3	情報の解釈・関連付け・統合化の方法		
4	課題抽出		
5	課題の優先順位		
6	課題の明確化		
7	課題の表現		
8	個別援助計画の意義・目的		
9	ケアの標準化と個別化の視点		
10	目標の設定		
11	具体的援助方法		
12	援助内容の記述方法		
13	介護計画（個別援助計画書）の実際		
14	介護過程とケアマネジメントの関係性		
15	まとめ 定期試験		

●成績評価のしかた

定期試験（50%）、提出物や課題の内容（40%）、授業態度（発言やその内容等10%）等から総合的に評価します。

●教科書・参考図書

教科書：介護福祉士養成講座編集委員会編 「最新・介護福祉士養成講座9 介護過程」
（中央法規，2019年）

参考図書：ミネルヴァ書房編集部編 「社会福祉小六法 2019 [平成31年版]」
（ミネルヴァ書房，2019年）

：中央法規出版編集部編 「介護福祉法後辞典 7訂」
（中方法規，2015年）

他 事例に関連する資料・教科書等

●履修へのアドバイス

介護福祉士が実践する専門的な介護は、勘や経験に頼ったものではなく、予測性をもったものであると同時に、支援の根拠が明確であることが期待されています。介護福祉士が専門職として社会的な責任を果たすためには、介護過程の展開を通して支援の根拠を明確にし、介護実践に責任を持たなければならないことを理解してください。

介護総合演習Ⅰ (全45回)	介護福祉士科	1年	通年
	担当教員	織田 なおみ・藤井 一磨	

●授業概要

★この授業のねらい

介護実習の臨むにあたり、まずは実習の概要・意義・目的について理解を深めます。また、目標を持つことの大切さを理解し、到達目標に添って自己目標を明確化します。

実習先となる施設・事業所は多種多様です。事前学習をとおして施設(事業所)概要をしっかりと学習し、そこで介護福祉士が具体的にどのような援助を行うのか理解する必要があります。さらに、基本的態度や心構え、必要な技術を身に付けた上で実践に臨みます。専門職を目指す者としての自覚を持ち、他科目との横断学習を意識しながら進めます。

★仕上がり像

- 1 介護実習の意義と目的を説明することができる。
- 2 介護実習を行う現場(事業所・施設等)の概要について述べることができる。
- 3 実習における心構えや基本的態度を身に付け、それぞれを解説することができる。
- 4 体験をとおして、成果と課題を明確化し、報告することができる。

●授業内容

1	介護実習の意義と目的	24	報告会準備と報告書の作成(実習Ⅰ-②)
2	介護実習の種類と実習内容	25	実習Ⅰ 報告会(後半)(1)
3	介護実習Ⅰの概要と進め方	26	実習Ⅰ 報告会(後半)(2)
4	実習先の種別理解と介護福祉士の役割(高齢者領域)	27	介護実習Ⅱ-1の概要と進め方
5	実習先の種別理解と介護福祉士の役割(障害者領域)	28	実習先の種別理解と介護福祉士の役割(特養・老健・身障)
6	実習Ⅰで取り組む記録物	29	実習Ⅱ 目標の明確化
7	実習日誌の意義と目的	30	実習Ⅱ-1で取り組む記録物(カンファレンス)
8	実習日誌の記述と留意点(日々の目標)	31	カンファレンスの意義と目的
9	実習日誌の記述と留意点(記述のルール)	32	カンファレンスの題材と記述
10	実習Ⅰ 目標の明確化	33	カンファレンスの実際
11	実習Ⅰ 目標の明確化(具体的行動目標)	34	カンファレンスの実際(振り返り)
12	事前訪問について	35	実習Ⅱ-1で取り組む記録物(介護過程)
13	実習の心得・心構え	36	実習Ⅱ 実習前評価
14	実習Ⅰ実習前評価	37	実習Ⅱ-1 確認事項
15	実習Ⅰ(前半)の成果	38	実習Ⅱ-1 成果
16	実習Ⅰ(前半)の課題の整理	39	実習Ⅱ-1 課題の整理
17	実習Ⅰ-①実習後評価 / 礼状書き	40	実習Ⅱ 実習後評価 / 礼状書き
18	報告会準備と報告書の作成(実習Ⅰ-①)	41	報告会準備と報告書作成(実習Ⅱ)
19	実習Ⅰ 報告会(前半)(1)	41	実習Ⅱ-1 報告会(1)
20	実習Ⅰ 報告会(前半)(2)	43	実習Ⅱ-1 報告会(2)
21	実習Ⅰ(後半)成果	44	実習Ⅱ-1 報告会(3)
22	実習Ⅰ(後半)課題の整理	45	実習Ⅱ-1 報告会(4)
23	実習Ⅰ-② 実習後評価 / 礼状書き		

●成績評価のしかた

実習前評価(30%) 報告書(会)や各記録物(60%)、授業態度(発言やその内容等10%)等にて総合的に評価します。

●教科書・参考図書

教科書：介護福祉士養成講座編集委員会編 「最新・介護福祉士養成講座10
介護総合演習・介護実習」 (中央法規, 2019年)
介護実習要綱(本校作成)他、授業に関する資料・教科書等を使用します。

●履修へのアドバイス

目的意識をしっかり持って積極的に取り組みましょう。介護実習は、それまでに学んできたことの総合的な取り組みになります。実習の準備だけでなく、各科目の予・復習も必要です。

介護実習 I (120時間)	介護福祉士科	1年	前期
	担当教員	各実習施設指導者	

●授業概要

★この授業のねらい

初めての学外実習になります。この実習は、利用者の生活の場である多様な介護現場において、利用者理解を中心とし、これに併せて利用者とのコミュニケーションの実践、多職種協働の実践、介護技術の確認を行うことに重点がおかれた実習です。

★仕上がり像

- 1 利用者及び職員に自分から適切な挨拶をすることができる。
- 2 利用者の反応に応じて、基本的な態度で話を聴くことができる。
- 3 利用者の生活や環境に関心を持ち、また、関わりを通して心身の特徴を説明することができる。
- 4 安全・安楽に基本的介護技術を体験し、適切に振り返ることができる。
- 5 体験・観察を適切に行い、記録を通して考察することができる。
- 6 実習施設の概要や特性を説明することができる。
- 7 介護職の責務と職責を理解し、述べることができる。
- 8 自己の所在や行動を明らかにし、速やかに報告・連絡・相談することができる。

●授業内容

	介護実習(施設) 18日間(休憩時間を除く)		
--	---------------------------	--	--

●成績評価のしかた

実習施設評価(60%)、教員評価(40%)の総合評価とします。

●教科書・参考図書

教科書：介護福祉士養成講座編集委員会編
 「最新・介護福祉士養成講座10 介護総合演習・介護実習」(中央法規, 2019年)
 介護実習要項(本校作成)

●履修へのアドバイス

介護実習要項(本校作成)にある実習心得に準じて行動してください。また、学外実習では、学内での挨拶や報告・連絡等の基本姿勢がしっかり身に付いている必要があります。介護実践の場に身を置くことをイメージして、日頃の生活から意識的な行動・振舞いを心がけることがとても大切です。

介護実習Ⅱ－１	(96時間)	介護福祉士科	1年	後期
		担当教員	各実習施設指導者	

●授業概要

★この授業のねらい

この実習では、利用者とのかかわりを通して適切なコミュニケーションをとりながら、その方の生活課題やニーズに添った介護を提供するため、介護過程における情報収集を行います。また、生活支援技術の実践を通して介助の根拠を理解するとともに、個別性に添った応用的技術を体験します。

★仕上がり像

- 1 利用者が気持ちや考えを表現できるような関わりをし、良好な関係性を築くことができる。
- 2 利用者の生活背景・心身状況等、全体像を理解することができる。
- 3 安全・安楽な基本介護技術を実践し、援助の根拠を考察することができる。
- 4 利用者の個別性に応じた介護技術を実践することができる。
- 5 一人の利用者の全体を捉え、介護過程展開の基礎を身に付けることができる。
- 6 アセスメントにおいて適切な情報収集ができる。
- 7 利用者の変化や反応に気づき、的確に報告することができる。
- 8 連携のための関連職種とその業務内容を知り、チームワークのあり方を説明することができる。
- 9 生活支援者としての自己を客観的に捉え、介護福祉士としての課題に気づき述べるができる。

●授業内容

介護実習(施設)			
14日間(休憩時間を除く)			

●成績評価のしかた

実習施設評価(60%)、教員評価(40%)の総合評価とします。

●教科書・参考図書

教科書：介護福祉士養成講座編集委員会編
「最新・介護福祉士養成講座10 介護総合演習・介護実習」(中央法規, 2019)
介護実習要項(本校作成)

●履修へのアドバイス

介護実習Ⅰで養ったコミュニケーション能力や生活支援技術を生かして、専門的実践を体験します。介護過程の展開では、2年次実習で必須となるアセスメント能力を身に付けます。要となるのは、利用者との良好な関係性です。主体的・意識的に行動し、実りある実習にしてください。

発達と老化の理解 I (全15回)	介護福祉士科	1年	前期
	担当教員	横山 みどり	

●授業概要

★この授業のねらい

成長・発達の観点から老化を理解し、老化に関する心理や身体機能の変化およびその特徴に関する基礎的な知識を習得することが目的です。人間の成長と発達の基礎的な理解のために、誕生から死に至るまでの心身の発達や成長・成熟、生理的变化について学びます。その上で、老化に伴う心身の変化やそれが日常生活に及ぼす影響、老年期に見られる家庭・地域での役割の変化や、家族や友人との別れなどの喪失体験など高齢者の気持ちについて理解を深めます。また、老化を受容し新たな価値形成をしていく過程や成熟していく過程を理解し、高齢者の人格と尊厳を守る個別ケアの基本を学びます。

★仕上がり像

- 1 発達の観点から老化を理解することができる。
- 2 老化に関する心理や身体機能の変化の特徴を説明することができる。
- 3 根拠に基づいた介護の実践につながる知識を述べることができる。

●授業内容

1	成長と発達		
2	発達理論		
3	発達段階と発達課題		
4	身体的機能の成長と発達		
5	心理的機能の発達		
6	社会的機能の発達		
7	老年期の定義		
8	老化		
9	老年期の発達課題		
10	老年期をめぐる今日的課題		
11	加齢による生理機能の低下		
12	身体的機能の低下と日常生活への影響		
13	認知機能の変化		
14	パーソナリティ・動機づけ・適応		
15	老化にともなう社会的な変化		
	定期試験		

●成績評価のしかた

定期試験(60%)、小テスト(10%)、取り組み状況(発言、課題提出等:30%)の割合で総合的に評価します。

●教科書・参考図書

教科書：介護福祉士養成講座編集委員会編 「最新 介護福祉士養成講座12 発達と老化の理解」(中央法規, 2019年)
必要時、参考資料を配付します。

●履修へのアドバイス

利用者の年齢や状況から先入観を持つことなく「その人」個人をしっかりと理解するために、人間の成長・発達、老化に関する基礎的な知識を学び、身近な人や実習で関わる利用者結びつけて理解を深めてください。

認知症の理解 I (全15回)	介護福祉士科	1年	前期
	担当教員	池田 望	

●授業概要

★この授業のねらい

認知症の人は、日々の生活においてどのようなことを体験し、それをどのように感じているのでしょうか。認知症の介護は、まずは認知症の人の体験を知ることから始まります。さらにこれまでの認知症ケアの歴史を振り返り、これからどのような視点を持ってケアを創造していけばよいのかを学びます。

★仕上がり像

- 1 認知症の人の体験から、基本的視点を述べるることができる。
- 2 認知症を取り巻く状況を説明することができる。
- 3 認知症の人の医学・行動・心理面を説明することができる。

●授業内容

1	認知症の人の介護に向けて		
2	本人本位の視点を確かなものに		
3	認知症の人の体験		
4	認知症ケアの歴史		
5	認知症ケアの理念と視点		
6	認知症とは（総論）		
7	認知症とは（各論）		
8	認知症の診断		
9	認知症の原因疾患と治療		
10	認知症の予防		
11	認知症の人の行動症状		
12	認知症の人の心理症状		
13	認知症の人の心理的理解（総論）		
14	認知症の人の心理的理解（各論）		
15	まとめ 定期試験		

●成績評価のしかた

定期試験90%、平常点10%の割合で評価します。

●教科書・参考図書

教科書：介護福祉士養成講座編集委員会編 「最新・介護福祉士養成講座12 認知症の理解」
(中央法規, 2019年)

●履修へのアドバイス

配布資料はしっかりファイリングしましょう。

障害の理解 I (全15回)	介護福祉士科	1年	後期
	担当教員	平野 啓介	

●授業概要

★この授業のねらい

障害のある人の心身機能に関する基礎的知識と、家族や生活環境にも配慮した支援の基本的視点を学びます。
さらに障害者福祉の理念や障害サービス制度の概要、社会資源についても理解を深めつつ、望ましい支援のあり方を理解します。

★仕上がり像

- 1 障害が及ぼす心理的影響や障害の受容、日常生活への影響について考えを述べることができる。
- 2 障害福祉分野の制度について、目的・特徴・実施機関や専門職の役割等を説明することができる。
- 3 本人および家族への支援について説明することができる。
- 4 多職種連携と協働について解説することができる。

●授業内容

1	障害の概念・わが国における障害者の法的定義と障害者の概数	
2	国際障害分類と国際生活機能分類	
3	障害者福祉の基本理念	
4	障害のある人の生活の理解（身体障害を中心に）	
5	障害のある人の生活の理解（知的障害を中心に）	
6	障害のある人の生活の理解（精神障害を中心に）	
7	障害のある人の生活の理解（発達障害を中心に）	
8	障害のある人の生活の理解（難病を中心に）	
9	障害のある人に対する介護（基本的視点、障害受容、心理的影響）	
10	障害のある人に対する介護（障害に伴う生活の変化とその影響・個別支援）	
11	障害のある人に対する介護（介護過程）	
12	家族への支援	
13	社会資源の利用と開発	
14	地域におけるサポート体制	
15	連携と協働（専門職とチームアプローチ）	
	定期試験	

●成績評価のしかた

定期試験（70%）、課題の提出（15%）、授業の取り組み（15%）で総合的に評価します。

●教科書・参考図書

1	教科書 (1) 介護福祉士養成講座編集委員会編「最新 介護福祉士養成講座8 生活支援技術Ⅲ」 (中央法規, 2019年) (2) 介護福祉士養成講座編集委員会編「最新 介護福祉士養成講座14 障害の理解」 (中央法規, 2019年) (3) 中央法規出版編集部編「七訂 介護福祉士用語辞典」(中央法規, 2015年) (4) ミネルヴァ書房編集部編「社会福祉小六法 2019 [平成31年度版]」 (ミネルヴァ書房, 2019年)
2	参考図書は適宜紹介します。

●履修へのアドバイス

- 1 資料は、保管用ファイルを準備し、時系列に整理してください。
- 2 障害が個人に与える生活への影響は、発生時期や程度、生活の制約や社会参加、人々の障害者観など個人により異なります。障害を持つ方を取り巻く報道、話題にも関心を持ちましょう。

こころとからだのしくみ I (全15回)	介護福祉士科	1年	前期
	担当教員	槇 洋一	

●授業概要

★この授業のねらい

日常生活で経験する出来事からわかるように、自分の行動は「こころ」が大きく関係しています。心理学とは、「こころ」を扱う学問です。ここでは、「こころ」に関するさまざまな事柄が研究されています。この授業では、心理学で扱われている内容を幅広く学びます。わかりやすくするために、日常的な場面での例を紹介したり、デモンストレーションを通して現象を体験してもらいます。受講生のみなさんが積極的に授業に取り組み、「こころ」の問題に関心や興味を持ってくれることを期待します。

★仕上がり像

講義内容を学習することで、自分が「こころ」の問題に直面したときに、対応を考えるためのヒントやきっかけを述べることができる。

●授業内容

1	心理学とは		
2	動機づけ		
3	感情		
4	性格		
5	感覚・知覚		
6	記憶		
7	目撃証言		
8	思考		
9	対人関係（印象）		
10	対人関係（好意）		
11	心の発達		
12	ライフサイクル		
13	ストレスとメンタルヘルス		
14	カウンセリングと心理療法		
15	まとめ 定期試験		

●成績評価のしかた

定期試験（80%）、受講状況（20%）を総合的に評価します。

●教科書・参考図書

毎回、資料を配布します。

●履修へのアドバイス

授業で紹介される心理学は、みなさんが抱いている「心理学」のイメージとは違うかもしれません。この授業は「学問」としての心理学を覚えるチャンスですので、興味を持って授業に参加してください。

こころとからだのしくみⅡ (全30回)	介護福祉士科	1年	通年
	担当教員	横山 みどり	

●授業概要

★この授業のねらい

こころとからだの両面から利用者の状態を見て、その状態がどのような要因から引き起こされているのか、その根拠となる知識を学びます。そこから、利用者の残存能力（残っている力）・潜在能力を引き出し、利用者の尊厳の尊重と自立を支援するための適切な介護方法を考えることを目的とします。

★仕上がり像

- 1 こころとからだのしくみを理解することができる。
- 2 心身の状態が日常生活にどのように関与しているのか、そのしくみを説明することができる。
- 3 正常（いつもの状態）を理解することから、異常（いつもと違う状態）に気づく観察力を身に付けることができる。
- 4 利用者の状態に合わせた適切な介護方法を述べることができる。

●授業内容

1	こころのしくみ（欲求・自己実現）	16	排泄のしくみ（排尿のしくみ）
2	こころのしくみ（基礎）	17	排泄のしくみ（排便のしくみ）
3	からだのしくみ（脳・神経）	18	排泄のしくみ（心身機能）
4	からだのしくみ（呼吸器、循環器）	19	排泄のしくみ（変化の気づき・対応）
5	移動のしくみ（移動のしくみ）	20	入浴・清潔保持のしくみ（身体機能）
6	移動のしくみ（身体機能）	21	入浴・清潔保持のしくみ（身体機能）
7	移動のしくみ（精神機能）	22	入浴・排泄保持のしくみ（精神機能）
8	移動のしくみ（変化の気づき・対応）	23	入浴・清潔保持のしくみ（変化の気づき・対応）
9	身じたくのしくみ（身じたくのしくみ）	24	睡眠のしくみ（睡眠のしくみ）
10	身じたくのしくみ（心身機能）	25	睡眠のしくみ（心身機能）
11	身じたくのしくみ（変化の気づき・対応）	26	睡眠のしくみ（変化の気づき・対応）
12	食事のしくみ（食事のしくみ）	27	死にゆく人に関連したしくみ（身体機能）
13	食事のしくみ（身体機能）	28	死にゆく人に関連したしくみ（こころの変化）
14	食事のしくみ（精神機能）	29	死にゆく人に関連したしくみ（連携）
15	食事のしくみ（変化の気づき・対応）	30	まとめ 定期試験

●成績評価のしかた

定期試験(60%)、小テスト(10%)、取り組み状況（発言・課題提出等：30%）の割合で総合的に評価します。

●教科書・参考図書

教科書：介護福祉士養成講座編集委員会編 「最新 介護福祉士養成講座 1 1 こころとからだのしくみ」（中央法規，2019年）
 介護福祉士養成講座編集委員会編 「最新 介護福祉士養成講座 7 生活支援技術Ⅱ」（中央法規，2019年）
 必要時、参考資料を配付します。

●履修へのアドバイス

こころとからだのしくみが理解できると生活支援技術の根拠や留意点が理解しやすくなります。聞きなれない言葉がたくさん出てくるとと思いますが、繰り返し学習して知識を身に付けてください。

接遇マナー	(全15回)	介護福祉士科	1年	前期
		担当教員	坪崎 美佐緒	

●授業概要

★この授業のねらい

円滑な社会的な生活を営むためには、社会人としてのマナーが必要です。聞くことや伝えることなどの最低限のマナーを身に付け、しっかりと実習や就職活動に望める力を育みます。また、卒業後も社会人、組織人として活躍できるように、実践で生かせるマナーを身に付けます。

★仕上がり像

- 1 社会人として適切な挨拶ができ、敬語や接遇のマナーが実践することができる。
- 2 就職試験の際、自分をしっかりアピールすることができる。

●授業内容

1	身だしなみと挨拶(お辞儀・態度)		
2	社会人としての初歩的知識		
3	表現のマナー (敬語・会話のマナー)		
4	表現のマナー (電話応対)		
5	来客応対・受付対応		
6	接客マナー		
7	敬語のマナー		
8	介護職として必要なマナー		
9	敬語のマナー(文章力)		
10	好印象をあたえるマナー(自己紹介・面接)		
11	好印象をあたえるマナー (面接)		
12	好印象をあたえるマナー (面接/応用)		
13	食事のマナー		
14	就職に向けたマナー (冠婚葬祭)		
15	就職に向けたマナー (冠婚葬祭/応用)		
	定期試験		

●成績評価のしかた

定期試験 (70%)、授業への取り組み状況 (ディスカッション等 30%)) で総合的に評価します。

●教科書・参考図書

教科書①マナー&プロトコルの基礎知識 (NPO法人日本mナー・プロトコール協会)
 教科書②:関根健夫・杉山真知子「介護・福祉職のためのマナーと接遇」 (中央法規, 2015)
 プリント教材を配布して使用します。

●履修へのアドバイス

どんなに知識が豊富でも、「当たり前のこと」がしっかりとできないことには評価されません。逆に「当たり前のこと」がしっかりとできると、周りからも認められ、信頼されるものです。「当たり前のこと」を当たり前に行えるようになって、ワンランク上の社会人を目指しましょう。

平成31年度 介護福祉士科 カリキュラム【2年課程】

2018・2019年度入学生

項目	授業科目	時数	1年次		2年次		合計
			前期	後期	前期	後期	
人間と社会	人間の理解Ⅰ	30	30				30
	人間の理解Ⅱ	30			30		30
	社会の理解Ⅰ	30	30				30
	社会の理解Ⅱ	30			30		30
	生活の理解Ⅰ	30	30				30
	生活の理解Ⅱ	30		30			30
	生活の理解Ⅲ	30			30		30
	保健体育	30		30			30
	情報処理	30	30				30
	文章の表現Ⅰ	30	30				30
	文章の表現Ⅱ	30			30		30
介護	介護の基本Ⅰ	120	60	60			120
	介護の基本Ⅱ	60			30	30	60
	コミュニケーション技術Ⅰ	30	30				30
	コミュニケーション技術Ⅱ	30		30			30
	生活支援技術Ⅰ	90	45	45			90
	生活支援技術Ⅱ	30			30		30
	生活支援技術Ⅲ-1	30			30		30
	生活支援技術Ⅲ-2	30		30			30
	生活支援技術Ⅲ-3	30	30				30
	生活支援技術Ⅲ-4	30		30			30
	生活支援技術Ⅲ-5	30				30	30
	生活支援技術Ⅲ-6	30			30		30
	介護過程Ⅰ	30	30				30
	介護過程Ⅱ	30	30				30
	介護過程Ⅲ	30		30			30
	介護過程Ⅳ	30			30		30
	介護過程Ⅴ	30				30	30
	介護総合演習Ⅰ	90	45	45			90
	介護総合演習Ⅱ	60			60		60
	介護実習Ⅰ	120	120				120
介護実習Ⅱ-1	96		96			96	
介護実習Ⅱ-2	240			240		240	
こころとからだのしくみ	発達と老化の理解Ⅰ	30	30				30
	発達と老化の理解Ⅱ	30			30		30
	認知症の理解Ⅰ	30	30				30
	認知症の理解Ⅱ	30			30		30
	障害の理解Ⅰ	30		30			30
	障害の理解Ⅱ	30			30		30
	こころとからだのしくみⅠ	30	30				30
	こころとからだのしくみⅡ	60	30	30			60
	こころとからだのしくみⅢ	30			30		30
医療的ケア	医療的ケア(講義)	70				70	70
	医療的ケア(演習)	30				30	30
特科 設目	介護福祉総論	90				90	90
	接遇マナー	30	30				30
時間数合計			1,176		970		2,146

人間の理解Ⅱ (全15回)	介護福祉士科	2年	前期
	担当教員	越石 全	

●授業概要

★この授業のねらい

人間の理解Ⅰでは「人間としての尊厳の保持と自立支援」を中心に学びました。ここでは、さらに「人間の理解」を深めるためにミクロ・メゾ・マクロの視点から人間を捉えます。ミクロでは人間の「尊厳」と「人権」の立場から理解を深めます。メゾでは、「家族」「地域」とのつながり・関係から学びます。マクロでは、人間の感性・行動が制度・構造からどのように影響を受けているか理解を深めます。「人間の理解」に対して多様な視点を養うことにより、介護実践の幅が広がります。特に、「尊厳」「人権」の理解は、介護技術の基盤となる社会福祉思想の構築に貢献します。

★仕上がり像

- 1 個人の尊厳・人権の具体的内容について説明できる。
- 2 家族・地域との関係についてマッピング技法を活用し説明することができる。
- 3 人間の思想・行動がどのように社会制度から影響を受けているか具体的例をあげて自分の考えを述べることができる。

●授業内容

1	尊厳の歴史（第2次世界大戦前）		
2	尊厳の歴史（第2次世界大戦後）		
3	人権に関する基礎知識		
4	権利と義務関係		
5	人権の制度化		
6	人間の尊厳と人権の関係		
7	自己決定の多様性		
8	社会福祉実践における自己決定		
9	マッピング技法の基礎理解		
10	マッピング技法の実際		
11	暗黙知		
12	ハビトウス		
13	アフォーダンス		
14	社会資源		
15	ネットワーク		
	定期試験		

●成績評価のしかた

定期試験（60点）、レポート評価（20点）、討論（20点）で総合的に評価します。
レポート評価については、ルーブリック評価で行います。

●教科書・参考図書

教科書：介護福祉士養成講座編集委員会編「新・介護福祉士養成講座〔第3版〕 人間の理解」（中央法規、2017）、その他「講義プリント」を配布します。

●履修へのアドバイス

授業は講義だけでなくグループディスカッションも随時組み合わせて行います。積極的・主体的な取り組みを期待しています。また、図書館を活用し、関連書籍を読み問題意識を高めてください。

社会の理解Ⅱ (全15回)	介護福祉士科	2年	前期
	担当教員	中島 伸晃	

●授業概要

★この授業のねらい

個人が自立した生活を営むということを尊重し、個人・家族・近隣・地域・社会単位で人間を捉える視点を養うことと、利用者の生活と社会背景を関係づけ、心身の状況に応じたサービス提供の根拠となる制度を解釈できるようにするための学習をねらいとします。

本授業の前提として「社会の理解Ⅰ」で学習した社会保障全般の知識を軸とし、主に介護保険制度・障害者自立支援制度の詳細についての知識を深めつつ、制度を取り巻く組織や専門職の役割、他職種連携・協働、その他介護実践に関連する諸制度等について、例を挙げ授業を展開します。

★仕上がり像

- 1 社会保障制度の概要について説明することができる。
- 2 介護保険制度、障害者自立支援制度などの知識を深め、例を挙げて説明することができる。
- 3 利用者の個人情報保護や権利擁護に関する制度について説明することができる。
- 4 介護の実践において関連のある諸施策について説明することができる。
- 5 利用者の状況に即した諸制度・サービスは何かを判断し、結び付け、論じることができる。

●授業内容

1	地域共生社会と社会保障制度の概要		
2	介護保険制度（概要）		
3	介護保険制度（詳細）		
4	障害者自立支援制度（概要）		
5	障害者自立支援制度（詳細）		
6	高齢者保健福祉と障害者保健福祉		
7	社会保険のしくみ（年金、医療）		
8	社会保険のしくみ（その他）		
9	生活保護制度等		
10	社会手当等		
11	介護実践関連諸制度（権利擁護 等）		
12	介護実践関連諸制度（虐待防止 等）		
13	介護実践関連諸制度（保健医療 等）		
14	介護実践関連諸制度（住生活 等）		
15	まとめ		
	定期試験		

●成績評価のしかた

定期試験（筆記70点）、課題レポート（ルーブリック評価15点）、授業への取り組み（ルーブリック評価15点）で総合的に評価します。

●教科書・参考図書

教科書：介護福祉士養成講座編集委員会編「新・介護福祉士養成講座 2 『社会と制度の理解』〔第6版〕」（中央法規, 2017）

参考図書：ミネルヴァ書房編集部編「社会福祉用語辞典〔第9版〕」（ミネルヴァ書房, 2015）

：ミネルヴァ書房編集部編「社会福祉小六法2018」（ミネルヴァ書房, 2018）

その他、講義プリント（毎回配布）を使用します。

●履修へのアドバイス

- (1) 講義だけでなく、演習課題を取り入れるため、積極的な授業参加を期待します。
- (2) 日頃からニュースや新聞記事に関心を持ち、情報・知識を更新していきましょう。

生活の理解Ⅲ (全15回)	介護福祉士科	2年	前期
	担当教員	宮下 史恵	

●授業概要

★この授業のねらい

この授業では、支援者として支援技術を身に付けていく大前提として、「生活」そのものを客観的・統合的に俯瞰する姿勢を養うことを目標とします。生活の要素となる事柄について理論や具体的データを提示し、「生活する」とは何かを考えます。また、生活から派生する問題についても取り上げます。学生には、人びとの暮らしの多様性を理解し、異なる価値観を尊重する態度を養ってもらいたいと思います。

★仕上がり像

- 1 「生活すること」の総合性・多様性を説明することができる。
- 2 「生活すること」から派生する問題を理解し対処することができる。
- 3 「生活支援者」として、「生活」に対し、客観的な視点を持つことができる。
- 4 「被服」を科学的に説明することができる。

●授業内容

1	私たちの暮らしと生活支援（はじめに）		
2	家族と家庭を考える		
3	家族をデータで理解する、家族の法律		
4	暮らしを時間軸で考える		
5	家庭経済と国民経済について		
6	高齢者・障害者の家計、危機管理		
7	消費者として知っておくこと		
8	被服（役割と機能）		
9	被服（素材と特性）		
10	被服（素材の特性と実験）		
11	被服（身体能力とデザイン）		
12	被服（洗濯実験と保管）		
13	被服（裁縫実習の基本）		
14	被服（裁縫実習の応用）		
15	ライフスタイルと生活支援（まとめ）		
	定期試験		

●成績評価のしかた

定期試験70%、レポート課題20%、授業参加・発表10%で総合的に評価します。

●教科書・参考図書

教科書：介護福祉士養成講座編集委員会編「新・介護福祉士養講座6〔第4版〕 生活支援技術I」（中央法規，2017）
適宜、資料を配布して使用します。

●履修へのアドバイス

1. 聴くだけの授業ではなく、考えることが中心の授業です。積極的な発言を歓迎します。
2. 第13・14回には裁縫道具が必要です。授業で指示しますので、用意してください。

文章の表現Ⅱ (全15回)	介護福祉士科	2年	前期
	担当教員	吉川 慶子	

●授業概要

★この授業のねらい

「文章の表現Ⅰ」で学んだ「事実」と「意見」の違い、文章を書く際に必要な漢字・表現等の基礎技術の上に、社会で通じる実践的な国語力・表現力を養うことが、この授業のねらいです。他者にしっかり通じる、ひとりよがりではない文章や話し方を身に付け、同時に日常から「考える」習慣を培っていきましょう。

★仕上がり像

- 1 実習等のレポートが適切に書くことができる。
- 2 自分の意見を過不足なく伝える文章が書くことができる。
- 3 社会で必要とされる国語基礎力を身に付け実践することができる。

●授業内容

1	敬語（基本）		
2	敬語（応用）		
3	手紙の書き方		
4	「恩師への手紙」下書き		
5	「恩師への手紙」清書		
6	漢字・文表現（基本）		
7	レポートの書き方（総論）		
8	レポートの書き方（基本）		
9	レポートの書き方（応用）		
10	漢字・文表現（応用）		
11	自己分析、自己PR文		
12	介護福祉関連意見文・構成メモ		
13	介護福祉関連意見文・作成		
14	話し方・スピーチ（構成）		
15	話し方・スピーチ（実践）		
	定期試験		

●成績評価のしかた

作文等の課題（20％）と定期試験（80％）により総合的に評価します。

●教科書・参考図書

教科書：吉川 慶子著「国語表現法」（2015）
適宜、資料を配布して使用します。

●履修へのアドバイス

しっかり読み取れる濃さの筆記用具、および国語辞典（電子辞書可）を用意してください。

介護の基本Ⅱ (全30回)	介護福祉士科	2年	通年
	担当教員	織田なおみ	

●授業概要

★この授業のねらい

介護実践は、介護を必要とする人々を“生活者”として受け止め、一人ひとりの利用者の生き方や価値観、生活習慣などの“その人らしさ（個別性）”を大切にすることが基本視点となります。他領域で学んだ人間や社会を理解する視点から介護の専門性を理解し、利用者が安心して生活を営めるよう生活環境を整える観点を学びます。さらに、介護福祉士に求められている倫理観について深く考察し、自分の介護観を養うことが重要になります。

地域交流授業では、これまでの学習で学び得た知識やコミュニケーション能力を活かし、近隣地域に住む方々との実践的交流に取り組みます。

★仕上がり像

- 1 様々な場面における危機管理能力を養い、生活環境を整えるための視点を具体的に説明できる。
- 2 「求められる介護福祉士像」を明確にイメージし、自身の倫理観・介護観を述べるができる。
- 3 対人援助職としての実践的コミュニケーション能力を身に付け、活用することができる。

●授業内容

1	介護における安全の確保(リスクマネジメント)	16	倫理綱領に基づく実践（振り返り）
2	危険予知訓練（基本編）	17	地域交流の目的理解
3	危険予知訓練（応用編）	18	計画・立案・準備
4	介護実践の場の理解（概要理解）	19	地域交流の実践（導入）
5	介護実践の場の理解（職務理解）	20	地域交流の実践（実際）
6	介護実践の場の理解（他）	21	地域交流の実践（振り返り）
7	感染管理のための方策	22	地域交流における成果と課題
8	生活の場での感染対策	23	介護職の健康管理（意義と目的）
9	感染対策の基礎知識	24	介護職の健康管理（知識と技術）
10	レクリエーションの目的理解	25	事例検討（情報共有）
11	実施における留意点と計画・立案・準備	26	事例検討（支援方法）
12	レクリエーション演習（実践）	27	事例検討（結論）
13	レクリエーション演習（振り返り）	28	終末期ケア（介護の役割）
14	倫理綱領に基づく実践（導入）	29	終末期ケア（知識と技術）
15	倫理綱領に基づく実践（実際）	30	総まとめ
			定期試験

●成績評価のしかた

定期試験（70%）、授業に課すレポート等の課題（20%）、授業態度（発言やその内容等10%）にて総合的に評価します。

●教科書・参考図書

教科書：介護福祉士養成講座編集委員会編「新・介護福祉士養成講座3〔第3版〕介護の基本Ⅰ」（中央法規，2016）
 ：介護福祉士養成講座編集委員会編「新・介護福祉士養成講座4〔第4版〕介護の基本Ⅱ」（中央法規，2017）
 ：ミネルヴァ書房編集部編「社会福祉用語辞典〔第9版〕」（ミネルヴァ書房，2015）
 ：ミネルヴァ書房編集部編「社会福祉小六法2017」（ミネルヴァ書房，2017）
 適宜、資料を配布し使用します。

●履修へのアドバイス

介護福祉士には、対人援助専門職として高い倫理観が必要になります。介護福祉士としての資質について深く考察し、必要とされる人材・求められる介護福祉士を目指して真剣に考え取り組んでください。また、介護福祉士として社会で活躍する姿をイメージしながら学習することも大切です。

生活支援技術Ⅱ (全15回)	介護福祉士科	2年	前期
	担当教員	織田なおみ	

●授業概要

★この授業のねらい

様々な場面において、映像分析等を通して自己の介助を客観的に振り返り、課題の明確化および改善に向けて取り組みます。さらに、1年次で習得した基礎知識および技術を活かして、介護実践の場において個別性に応じた対応が出来るよう、安定した技術と応用的技術を身に付けます。また、介助における留意点やその根拠を明確に理解し、自分の言葉で説明ができるようになることを目指します。

★仕上がり像

- 1 様々な介助場面において、基本留意事項を踏まえた安定した介助を展開することができる。
- 2 基本的な生活支援技術を踏まえ、状況に応じた応用技術を展開することができる。
- 3 介助の留意点やその根拠について、自らの言葉で説明することができる。

●授業内容

1	生活支援技術Ⅱを学ぶにあたり/臥床時のシーツ交換
2	体位変換に関する応用的技術
3	衣服着脱に関する応用的技術
4	排泄介助に関する応用的技術
5	トランスファに関する応用的技術
6	トランスファに関する応用的技術（機器の活用）
7	入浴・保潔に関する応用的技術
8	入浴・保潔に関する応用的技術（機器の活用）
9	視覚障害者の移動介護（屋内）
10	視覚障害者の移動介護（屋外）
11	視覚障害者の移動介護（応用）
12	事例に基づく総合演習Ⅰ（実践）
13	事例に基づく総合演習Ⅰ（根拠）
14	介助における根拠の考察と振り返りⅠ
15	まとめ 定期試験

●成績評価のしかた

定期試験（80%）、授業に課す課題等（10%）、授業態度（発言やその内容等10%）、にて総合的に評価します。

●教科書・参考図書

教科書：介護福祉士養成講座編集委員会編「新・介護福祉士養成講座7〔第3版〕生活支援技術Ⅱ」（中央法規，2014）
適宜、資料を配布し使用します。

●履修へのアドバイス

技術としての技法を学ぶだけでなく、ケアの対象となる人々の生活全体を見ながら、「どのような生活を送りたいのか」「その人の持つ能力を活かした生活が送れているか」「その人らしく生活するための支援とは何か」等に注目し、状況に応じた質の高い介護技術を養うよう努めてください。

生活支援技術Ⅲ－１	(全１５回)	介護福祉士科	２年	前期
		担当教員	小橋 透	

●授業概要

★この授業のねらい

聴覚言語障害者や高齢者のさまざまなニーズに総合的に対応できるようにするためには、障害に起因する諸問題について理解を深めることが重要です。聴覚や言語に障害があると日常の生活や文化的な活動にさまざまな支障が生じます。意思や感情の伝達が円滑に行かず、また情報の受容が乏しくなり、社会への適応が困難になります。これらの問題や困難を克服して円滑な社会生活や家庭生活を営むことができるよう、障害の程度や特性に応じた適切な生活支援のあり方を学びます。

★仕上がり像

- 1 社会生活や家庭生活上の困難など、聴覚言語障害に起因する諸問題について説明することができる。
- 2 聴器・発声器のはたらき、障害の程度や特徴、聴覚言語機能を補助する機器について説明することができる。
- 3 個々に応じたコミュニケーションや円滑な人間関係を促す支援のあり方について認識を深め説明することができる。

●授業内容

1	聴覚障害者の理解		
2	聞こえのしくみと各部のはたらき		
3	音の性質と聴力検査の方法		
4	聞こえの程度区分とその特徴		
5	聴覚障害者のコミュニケーション (1)		
6	聴覚障害者のコミュニケーション (2)		
7	聴覚・言語機能補助機とその活用		
8	聴覚言語障害者の生活上の諸問題と福祉		
9	言葉とは		
10	言葉を生み出すメカニズム		
11	失語症者との接し方		
12	構音障害者との接し方		
13	高次脳機能障害者との接し方		
14	吃音者との接し方		
15	大人の発達障害者との接し方		
	定期試験		

●成績評価のしかた

・講義や演習を通じて学習への参加状況、出席状況、定期試験の結果などを総合的に評価します。

●教科書・参考図書

教科書：介護福祉士養成講座編集員会編「新・介護福祉士養成講座8 [第3版] 生活支援技術Ⅲ」
(中央法規, 2014)
適宜、資料を配布し使用します。

●履修へのアドバイス

- 1 各自が問題意識を持ち、学習事項を整理復習するなど内容の習得に努めましょう。
- 2 介護福祉士という自己の目標を自覚し、積極的な学習参加を期待しています。

生活支援技術Ⅲ－5 (全15回)	介護福祉士科	2年	後期
	担当教員	福田 道代	

●授業概要

★この授業のねらい

外見から分かりにくい、内部障害のある人の生活のしづらさを理解し、それぞれの病態に応じて、どのような介護のあり方が望ましいのかを学びます。

★仕上がり像

- 1 心臓機能障害の特性、支援方法、その留意点が説明できる。
- 2 腎臓機能障害の特性、支援方法、その留意点が説明できる。
- 3 呼吸器機能障害の特性、支援方法、その留意点が説明できる。
- 4 膀胱・直腸機能障害の特性、支援方法、その留意点が説明できる。
- 5 肝機能障害の特性、支援方法、その留意点が説明できる。
- 6 ヒト免疫不全ウイルスによる免疫機能障害の特性、支援方法、その留意点が説明できる。
- 7 小腸機能障害の特性、支援方法、その留意点が説明できる。

●授業内容

1	内部障害とは		
2	心臓の機能と主な疾患		
3	心臓機能障害のある人の生活支援		
4	呼吸器の機能と主な疾患		
5	呼吸器機能障害のある人の生活支援		
6	腎臓の機能と主な疾患		
7	腎臓機能障害のある人の生活支援（総論）		
8	腎臓機能障害のある人の生活支援（各論）		
9	肝機能と主な疾患		
10	肝機能障害のある人の生活支援		
11	膀胱・直腸の機能と主な疾患		
12	膀胱・直腸機能障害のある人の生活支援		
13	ヒト免疫不全ウイルスによる免疫機能障害の理解		
14	小腸機能障害のある人の生活支援		
15	「内部障害のある人の生活支援」のまとめ		
	定期試験		

●成績評価のしかた

定期試験、授業への取り組み状況、提出物などで総合的に評価します。

●教科書・参考図書

教科書：介護福祉士養成講座編集委員編「新・介護福祉士養成講座8 [第3版] 生活支援技術Ⅲ (中央法規, 2014)

参考図書：介護福祉士養成講座編集委員編「新・介護福祉士養成講座13 [第4版] 障害の理解」 (中央法規, 2015)

介護福祉士養成講座編集委員編「新・介護福祉士養成講座14 [第3版] こころとからだのしくみ」 (中央法規, 2014)

適宜、資料を配布し使用します。

●履修へのアドバイス

内部障害をもつ人の多くは、外見上は健常者と変わりなく見えます。外見に現れにくい内部障害を解剖生理や病態などを知識を根拠に理解を深め、その方たちの「生きにくさ」を理解しましょう。今は障害のない人も、将来、内部障害をもつ可能性をもっています。様々な内部障害を持った人がどのように生きにくさを感じているのかを深く洞察し、どのような援助があればよりよい社会生活を続けられるか考えながら、ともに学習をしましょう。

生活支援技術Ⅲ－6 (全15回)	介護福祉士科	2年	前期
	担当教員	高橋 銀司	

●授業概要

★この授業のねらい

介護福祉士は、さまざまな障害を持つ方と関わります。その人の生活背景や障害をもつことになった要因もさまざまです。

障害をもっている、その人らしい生活が継続されるよう思いや潜在力を引き出す支援が求められます。

ここでは、重複障害、重症心身障害とその関連要素を理解し、適切な生活支援ができるよう学習します。

★仕上がり像

- 1 障害が重複し、生活困難を抱えているの方の状態像を理解し、どのような障害状況であっても、人権に配慮した支援を実践することができる。
- 2 自立・自律に向け、適切な生活支援を実践することができる。

●授業内容

1	生活困難を抱えている方の理解（重複障害・総論）
2	生活困難を抱えている方の理解（重複障害・各論）
3	生活困難を抱えている方の理解（重症心身障害・総論）
4	生活困難を抱えている方の理解（重症心身障害・各論）
5	生活困難を抱えている方の理解（てんかん・総論）
6	生活困難を抱えている方の理解（てんかん・各論）
7	生活支援と環境整備（住環境・日常生活用具）
8	生活支援と環境整備（制度とその活用）
9	自立に向けた生活支援技術の展開（導入・全介助の要介護者を中心に）
10	自立に向けた生活支援技術の展開（実践・全介助の要介護者を中心に）
11	自立に向けた生活支援技術の展開（振り返り・全介助の要介護者を中心に）
12	展開後の課題整理（各項）
13	自立に向けた生活支援技術の展開（福祉用具の効果的活用・基本）
14	自立に向けた生活支援技術の展開（福祉用具の効果的活用・応用）
15	展開後の課題整理（まとめ）
	定期試験

●成績評価のしかた

定期試験、授業時間に課す課題、授業の取り組み等を総合的に評価します。

●教科書・参考図書

教科書：介護福祉士養成講座編集委員会編「新・介護福祉士養成講座8 [第3版] 生活支援技術Ⅲ」
（中央法規，2014）
参考図書：介護福祉士養成講座編集委員会編「新・介護福祉士養成講座13 [第4班] 障害の理解」
（中央法規，2015）

●履修へのアドバイス

- 1 授業の後半で、実技を行います。（実技学習のルールは介護技術関連科目と同様です。）
- 2 普段の生活から、福祉に関するニュースに関心を寄せ、問題意識を持ちましょう。

介護過程Ⅳ	(全15回)	介護福祉士科	2年	前期
		担当教員	織田 なおみ	

●授業概要

★この授業のねらい

1年次での「介護過程Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」の授業で学び得た介護過程の展開における基礎知識を確実に定着させ、介護実習Ⅱ-2(34日間)に臨みます。介護過程を展開することの意義目的を見失うことなく、様々な事例を通して、介護過程を展開する実践力を身に付けます。

介護過程は、チームで支援するための要になる要素です。同職種間での情報共有のためのコミュニケーションや、情報を正確に発信したり受信したりする能力も養うことが求められます。

★仕上がり像

- 1 収集した情報を適切に解釈(意味づけ)する。情報を関連させながら、統合化することができる。
- 2 生活上の課題を、専門職の視点から導き出すことができる。
- 3 チームで連携・協力しながら介護過程を展開し、情報共有のための伝達や記載をすることができる。
- 4 実施後の評価の視点について、説明することができる。

●授業内容

1	介護過程とチームアプローチ
2	事例検討 通所介護(アセスメント)
3	事例検討 通所介護(課題抽出・立案)
4	事例検討 特別養護老人ホーム(アセスメント)
5	事例検討 特別養護老人ホーム(課題抽出・立案)
6	事例検討 特別養護老人ホーム(評価)
7	事例検討 障害者支援施設(アセスメント)
8	事例検討 障害者支援施設(課題抽出・立案)
9	事例検討 障害者支援施設(評価)
10	事例検討 認知症対応型共同生活介護(アセスメント)
11	事例検討 認知症対応型共同生活介護(課題抽出・立案)
12	事例検討 認知症対応型共同生活介護(評価)
13	事例検討 介護老人保健施設(アセスメント)
14	事例検討 介護老人保健施設(課題抽出・立案)
15	事例検討 介護老人保健施設(評価)
	定期試験

●成績評価のしかた

定期試験(60%)、課題提出(30%)、授業態度(発言やその内容等10%)から総合的に評価します。

●教科書・参考図書

教科書：介護福祉士養成講座編集委員会編「新・介護福祉士養成講座9 [第3版] 介護過程」(中央法規, 2015)

参考図書：ミネルヴァ書房編集委員会編「社会福祉用語辞典[第9版]」(ミネルヴァ書房, 2015)
 :ミネルヴァ書房編集委員会編「社会福祉小六法 2018」(ミネルヴァ書房, 2018)
 :介護実習要項(本学作成)

●履修へのアドバイス

基礎知識を活かして、より実践的な介護過程を展開します。実習にて、介護福祉士としての専門性が十分に発揮できるよう、主体的な取り組みが求められます。ディスカッションでは、基本ルールを遵守し、有意義な機会となるよう活発な意見交換を期待します。

介護過程Ⅴ (全15回)	介護福祉士科	2年	後期
	担当教員	佐藤 雅彦	

●授業概要

★この授業のねらい

介護過程の総まとめとして学習します。介護専門職にはアセスメント、介護計画の立案、適切な介護サービスの提供から評価に至る一連の過程を、根拠に基づいて実践することが求められます。事例を題材に、他科目の知識・技術を確認・統合し個別性を尊重した支援について学びます。総まとめの観点であることから、介護福祉士だからこそ知ることができる「利用者個人の生活」や「人生の尊さ」のほか、「介護福祉士の仕事の魅力」等について、自他事例の検討を展開する中で理解を深めることをねらいとします。

★仕上がり像

- 1 ケアプランと個別援助計画の関係及び介護過程の展開過程について説明できる。
- 2 事例（利用者のアセスメント、計画立案、実施、評価）の文章化・言語化ができ、実践の根拠を示すことができる。
- 3 チームアプローチについて介護福祉士の役割を知り、多職種連携・協働の重要性を説明できる。

●授業内容

1	介護過程とアセスメント		
2	個別援助計画とチームアプローチ		
3	介護過程の事例検討（Aさんの情報）		
4	介護過程の事例検討（Aさんの支援方法）		
5	介護過程の事例検討（Bさんの情報）		
6	介護過程の事例検討（Bさんの支援方法）		
7	介護過程の事例検討（Cさんの情報）		
8	介護過程の事例検討（Cさんの支援方法）		
9	介護過程の事例検討（Dさんの情報）		
10	介護過程の事例検討（Dさんの支援方法）		
11	介護過程の事例検討（Eさんの情報）		
12	介護過程の事例検討（Eさんの支援方法）		
13	介護過程の事例検討（Fさんの情報）		
14	介護過程の事例検討（Fさんの支援方法）		
15	介護過程のまとめ		
	定期試験		

●成績評価のしかた

定期試験（60%）、課題提出及び報告（20%）、授業に対する取り組み（20%）から総合的に評価します。

●教科書・参考図書

教科書：介護福祉士養成講座編集委員会「新・介護福祉士養成講座9〔第3版〕介護過程」（中央法規、2015）

参考資料：介護実習Ⅱ-2で取り組んだケース資料を活用します。
：適宜、授業内容に関する資料を配布します。

●履修へのアドバイス

- 1 介護を実践していくうえで、介護過程を深く理解し、内容を明確化できることは介護福祉士として必要な役割の要素となります。授業では、事例を通じて積極的なディスカッションを意識すること、また他事例への関心や共感的理解を多く抱けるよう取り組みましょう。
- 2 自己資料が教材となりますので、提出と管理を徹底してください。

介護総合演習Ⅱ (全30回)	介護福祉士科		2年	前期
	担当教員	織田 なおみ ・ 五十嵐 あけみ		

●授業概要

★この授業のねらい

1年次の介護実習における成果と課題を踏まえ、目指す介護福祉士への自己目標達成に向け、意図的な行動が必要になります。介護福祉士に求められる知識・技術・価値・倫理等を再確認し、これまで学び得た事柄を統合させて実践に結びつけ学習します。さらに、実践の振り返りをおして成果と課題等を客観的に評価し、介護観や職業倫理についてより深く考察します。

★仕上がり像

- 1 介護実習における自己課題と到達目標を明確に持ち、実践することができる。
- 2 介護実践の多様な現場について、概要やそこでの介護福祉士の役割を理解し、説明することができる。
- 3 実践の振り返りをおして、成果と課題について考察することができる。
- 4 体験をおして、職業倫理や介護観を養い、述べることができる。

●授業内容

1	介護実習Ⅱ-2の意義と目的	16	報告会準備と報告書の作成（目標1）
2	実習Ⅱ-2で取り組む記録物	17	報告会準備と報告書の作成（目標2）
3	実習施設の種別と介護福祉士の役割理解	18	報告会準備と報告書の作成（目標3）
4	自己目標の明確化と具体的行動	19	報告会準備と報告書の作成（目標4）
5	記録 実習日誌（留意事項）	20	報告会準備と報告書の作成（全体）
6	記録 実習日誌（実際）	21	介護実習Ⅱ-2 報告会（1）
7	記録 カンファレンス（留意事項）	22	介護実習Ⅱ-2 報告会（2）
8	記録 カンファレンス（実際）	23	介護実習Ⅱ-2 報告会（3）
9	記録 介護過程の展開（留意事項）	24	介護実習Ⅱ-2 報告会（4）
10	記録 介護過程の展開（実際）	25	事例検討（情報共有）
11	実習前評価（知識）	26	事例検討（支援の実際）
12	実習前評価（技術）	27	事例検討（まとめ）
13	実習Ⅱ-2 成果の確認	28	介護福祉士の介護観
14	実習Ⅱ-2 課題の整理	29	介護福祉士の職業観
15	実習後評価 / 礼状書き	30	まとめ

●成績評価のしかた

実習前評価（20%）報告書（会）や各記録物（70%）、授業態度（発言やその内容等10%）にて総合的に評価します。

●教科書・参考図書

教科書：介護福祉士養成講座編集委員編
「新・介護福祉士養成講座10〔第3版〕介護総合演習・介護実習」（中央法規、2015）
：介護実習要綱（本校作成）
適宜、資料を配布し使用します。

●履修へのアドバイス

介護実習における自己目標を明確に持ち、意欲的な姿勢で取り組んでください。自らの目指す介護福祉士像をしっかりとイメージ化し、近づけるために努力をしてください。

介護実習Ⅱ-2 (240時間)	介護福祉士科	2年	前期
	担当教員	各実習施設指導者	

●授業概要

★この授業のねらい

この実習では、利用者のニーズや課題を明確にするため利用者ごとの介護計画の作成、実施後の評価や、これを踏まえた計画の修正という一連の介護過程の展開し、他科目で学習した知識や技術を融合して、具体的な介護サービス提供の基本と実践力を習得します。また、資格取得における仕上がり像を意識し、人間観や支援観、介護観の形成が重要になります。

★仕上がり像

- 1 基本的態度を基盤に、利用者との個別的な関わりを深めることができる。
- 2 相互関係の中で、利用者の主体性を尊重した働きかけができる。
- 3 利用者の全体像を捉え、個別の介護ニーズを把握することができる。
- 4 利用者に適した介護を実践し、適切に評価することができる。
- 5 一人の利用者の個性に応じ、介護計画の立案および実践、評価や修正をすることができる。
- 6 実習施設のサービス全般や地域社会における役割等について解説することができる。
- 7 チームケアの特性を知り、一員として、自覚と責任ある行動をとることができる。
- 8 介護福祉士として守るべき倫理と態度を身に付け実践することができる。
- 9 介護福祉士としての介護観を明確にし、述べることができる。

●授業内容

	介護実習(施設) 34日間(休憩時間を除く)		
--	---------------------------	--	--

●成績評価のしかた

実習施設評価(60%)、教員評価(40%)の総合評価とします。

●教科書・参考図書

教科書：介護福祉士養成講座編集委員編
「新・介護福祉士養成講座10 [第3版] 介護総合演習・介護実習」(中央法規, 2015)
：介護実習要綱(本校作成)
適宜、資料を配布し使用します。

●履修へのアドバイス

34日間の長期実習は、介護福祉士として実践現場へ出るための仕上げの実習になります。1年次で学んだ内容を活かして、自覚と責任ある行動を心がけてください。体調管理も介護福祉士にとっては重要な資質です。

発達と老化の理解Ⅱ (全15回)	介護福祉士科	2年	前期
	担当教員	横山 みどり	

●授業概要

★この授業のねらい

高齢者に多い疾病や老化に伴う機能低下が及ぼす日常生活への影響などを理解し、生活支援技術の根拠となる知識を習得します。

★仕上がり像

- 1 高齢者に特有の疾患の現れ方や高齢者が罹患しやすい疾患の特徴を理解することができる。
- 2 高齢者に現れる症状を学び、生活支援技術と関連させて具体的な支援の根拠を考えることができる。

●授業内容

1	高齢者の症状・疾患の特徴		
2	高齢者に多い症状・訴え(痛み・めまい等)		
3	高齢者に多い症状・訴え(不眠・誤嚥等)		
4	高齢者に多い病気(三大生活習慣病)		
5	高齢者に多い病気(高血圧・糖尿病)		
6	高齢者に多い病気(骨・関節系の病気)		
7	高齢者に多い病気(歯・口腔・目・耳・皮膚の病気)		
8	高齢者に多い病気(呼吸器の病気)		
9	高齢者に多い病気(腎・泌尿器・婦人科系の病気)		
10	高齢者に多い病気(消化器系の病気)		
11	高齢者に多い病気(循環器系の病気)		
12	高齢者に多い病気(脳・神経系・精神の病気)		
13	高齢者に多い病気(特定疾患・感染症)		
14	保健医療職との連携		
15	まとめ		
	定期試験		

●成績評価のしかた

定期試験(60%)、小テスト(10%)、取り組み状況(発言、課題提出等:30%)の割合で総合的に評価します。

●教科書・参考図書

教科書:介護福祉士養成講座編集委員会編「新・介護福祉士養成講座11〔第3版〕発達と老化の理解」(中央法規,2015年)

●履修へのアドバイス

「発達と老化の理解Ⅰ」「こころとからだのしくみ」と関連づけて、予習・復習をして授業に参加してください。

認知症の理解Ⅱ (全15回)	介護福祉士科	2年	前期
	担当教員	腰野 充	

●授業概要

★この授業のねらい

これまでに学んだ認知症に関する基礎的知識を基に、認知症のある人の体験や意思表示が困難な特性を理解し、本人のみならず家族を含めた周囲の環境にも配慮した介護の視点を学習します。また、認知症に関連した制度を学び、多職職種や地域の人と連携し、地域で認知症の人を支える必要性とその方法についても学びます。

★仕上がり像

- 1 認知症の進行に応じた身体・心理・行動の変化とかかわり方を理解し、認知症の状態に合った支援について具体的に考え、実践することができる。
- 2 家族を支援する必要性を学び、ともに認知症の人を支えていくための支援を考え実践することができる。
- 3 認知症の人が地域で暮らすための必要性を理解し、具体的な支援方法を考え示すことができる。

●授業内容

1	認知症の人の医学・行動・心理症状の復習（総論）		
2	認知症の人の医学・行動・心理症状の復習（各論）		
3	認知症の人の介護過程		
4	認知症の進行に応じた介護（初期・中期）		
5	認知症の進行に応じた介護（後期・終末期）		
6	若年性認知症について		
7	家族への支援（基本）		
8	家族への支援（応用）		
9	家族への支援（まとめ）		
10	認知症の人を地域で支える意義・目的		
11	認知症の人を地域で支える（基本）		
12	認知症の人を地域で支える（応用）		
13	認知症の人を地域で支える（まとめ）		
14	認知症対策と制度		
15	まとめ 定期試験		

●成績評価のしかた

定期試験（60％）、授業に課す課題（30％）、平常点（10％）を総合的に評価します。

●教科書・参考図書

教科書：介護福祉士養成講座編集委員会編「新・介護福祉士養成講座12〔第3版〕認知症の理解」（中央法規，2017）
適宜、資料を配付し使用します。

●履修へのアドバイス

これまでの学習では、認知症の人自身に対する関わり方や支援について学習してきましたが、この科目では認知症の人を中心としつつ、認知症の人を取り巻く家族や地域にも視野を向け、支援方法や連携・協働の地域包括ケアにについても理解を深めていきます。これまで学んだことをもとに学習を進めますので復習をして授業に臨みましょう。

障害の理解Ⅱ (全15回)	介護福祉士科	2年	前期
	担当教員	長井 豊貴	

●授業概要

★この授業のねらい

障害のある人の身体機能や心理に関する基礎的知識を踏まえ、障害のある人本人のみならず、家族を含めた周囲の環境にも配慮した介護の視点を習得しましょう。また、障害者福祉をめぐる制度やその課題を踏まえつつ、どのような社会資源を活用していくことが求められるかを理解しましょう。

★仕上がり像

- 1 障害が及ぼす心理的影響や障害の受容、日常生活への影響について考えることができる。
- 2 障害福祉分野の制度について、目的・特徴・実施機関や専門職の役割等を理解することができる。
- 3 本人および家族への支援について理解することができる。
- 4 連携と協働について理解することができる。

●授業内容

1	オリエンテーション、障害福祉の基本理念	
2	障害の捉え方	
3	障害のある人の特性を踏まえたアセスメントの視点	
4	肢体不自由のある人の生活①	
5	肢体不自由のある人の生活②	
6	知的障害のある人の生活	
7	精神障害のある人の生活	
8	発達障害のある人の生活	
9	高次脳機能障害のある人の生活	
10	重症心身障害のある人の生活	
11	内部障害のある人の生活①	
12	内部障害のある人の生活②	
13	内部障害のある人の生活③	
14	難病の人の生活	
15	高齢者に特徴的な疾患	
	定期試験	

●成績評価のしかた

定期試験，平常点（課題，授業の取り組み状況等）で総合的に評価します。

●教科書・参考図書

<教科書>

介護福祉士養成講座編集委員会編 新・介護福祉士養成講座13 障害の理解 中央法規
授業内容に応じて資料を配付します。

●履修へのアドバイス

個人の生活への影響は、発症時期や障害の程度、生活や社会への参加制約、社会の人々の障害者観などによって異なりますが、介護福祉士として生活環境への配慮を基盤としながらどのように取り組むべきか？一緒にを考察してみましよう。スムーズな理解導入のため予習の機会が増やし、不明点は都度確認しながら取り組みを進めてください。

こころとからだのしくみⅢ (全15回)	介護福祉士科	2年	前期
	担当教員	松田 眞紀子	

●授業概要

★この授業のねらい

「こころとからだのしくみⅡ」で学んだ知識を基に「観察ポイント」「気づき」「対応」について学び、実践に対応できる力を身に付けます。また、直面した困難事例の検証や、社会背景から読み取れる現状についても理解を深めます。

★仕上がり像

- 1 心身の機能・構造を理解し、心身に現れるさまざまな状態の根拠を述べることができる。
- 2 利用者の心身の変化を速やかに察知することができる観察の視点を説明することができる。
- 3 体験した事柄を根拠を明確に分析・考察し、次の支援につながる力を身に付け実践することができる。

●授業内容

1	こころとからだのしくみⅡ復習（総論）		
2	こころとからだのしくみⅡ復習（各論）		
3	移動に関連した事例（基本）		
4	移動に関連した事例（応用）		
5	排泄に関連した事例（基本）		
6	排泄に関連した事例（応用）		
7	食事に関連した事例（基本）		
8	食事に関連した事例（応用）		
9	活動に関連した事例（基本）		
10	活動に関連した事例（応用）		
11	睡眠に関連した事例（基本）		
12	睡眠に関連した事例（応用）		
13	死にゆく人のこころとからだ（基礎知識）		
14	死にゆく人のこころとからだ（医療との連携）		
15	まとめ 定期試験		

●成績評価のしかた

定期試験（80%）、レポート等提出物（10%）、平常点（10%）の割合で総合的に評価します。

●教科書・参考図書

教科書：介護福祉士養成講座編集委員会編「新・介護福祉士養成講座14〔第3版〕
こころとからだのしくみ」（中央法規，2014）
適宜、参考資料を配付し使用します。

●履修へのアドバイス

1年次に学んだ知識を基に、応用力・実践力を身につけていきます。断定的に捉えず、さまざまな可能性を考えながら個人ワークやグループワーク等に積極的に参加することを期待します。

医療的ケア(講義)	(全35回)	介護福祉士科	2年	通年
		担当教員	横山 みどり・真鍋 智美・矢野 由紀	

●授業概要

★この授業のねらい

平成27年度より介護福祉士が喀痰吸引、経管栄養という医行為の一部を、一定の要件の下に業として行うことができるようになりました。介護福祉士が法令の定める範囲内において医療的ケアの一部を担当することは、人間の生命・健康に直接かかわるものです。介護福祉士が医療的ケアの位置づけを理解し、安全に医療的ケアを提供できることを目的とした科目になります。

★仕上がり像

- 1 福祉の専門職として医療的ケアに携わるために関連する制度の概要、社会背景等について説明できる。
- 2 医療的ケアを担う一員として必要な法律と医療倫理を遵守できる。
- 3 医療的ケアに関連する多職種との連携について説明できる。
- 4 たんの吸引等に関連するからだのしくみを説明できる。
- 5 医療的ケア実施の際予測される急変・事故・対応について理解し、安全確認ができる。

●授業内容

1	人間と社会	26	子ども経管栄養
2	保健医療制度とチーム医療	27	経管栄養に係る感染と予防
3	安全な療養生活(喀痰吸引や経管栄養の安全な実施)	28	説明と同意
4	安全な療養生活(救急蘇生)	29	急変・事故発生時の対応
5	清潔保持と感染予防(感染予防)	30	胃ろうによる経管栄養の実施手順
6	清潔保持と感染予防(清潔・消毒・滅菌)	31	胃ろうによる経管栄養・経鼻経管栄養の実施手順
7	健康状態の把握(身体・精神の健康)	32	経鼻経管栄養の実施手順
8	健康状態の把握(バイタルサイン・急変時の対応)	33	胃ろうによる経管栄養の実際
9	健康状態の把握(バイタルサイン測定)	34	胃ろうによる経管栄養・経鼻経管栄養の実際
10	呼吸のしくみとはたらき	35	経鼻経管栄養の実際
11	喀痰吸引		定期試験
12	人工呼吸器と吸引		
13	子どもの吸引		
14	説明と同意		
15	呼吸器系の感染と予防説明と同意		
16	急変・事故発生時の対応		
17	口腔内吸引の実施手順		
18	鼻腔内吸引の実施手順		
19	気管カニューレ内部吸引の実施手順		
20	口腔内吸引の実際		
21	鼻腔内吸引の実際		
22	気管カニューレ内部吸引の実際		
23	消化器系のしくみとはたらき		
24	経管栄養		
25	経管栄養実施上の留意点		

●成績評価のしかた

定期試験(60%)、授業に課す課題(20%)、授業への取り組み状況(20%)等で総合的に評価します。

●教科書・参考図書

教科書：介護福祉士養成講座編集委員会編「最新 介護福祉士養成講座15 医療的ケア」(中央法規, 2019年) 適宜、資料を配付し使用します。

●履修へのアドバイス

100%の出席率が必要な科目です。定期試験に合格した後に、「医療的ケア(演習)」に進みます。
1年時に履修した科目の再確認(特にからだのしくみ)をしておくとう理解しやすいです。
介護福祉士が医療的ケアの一部を担うことになった経緯と意味について学び、介護福祉士としての役割を考えながら、安全に「喀痰吸引」「経管栄養」を行うための基本を学びます。「個人の尊厳」「制度」「からだのしくみ」「こころのしくみ」「安全」「清潔保持と感染予防」「健康状態の把握」等、幅広い知識・技術の上に成り立つものです。どうしても技術的な面に目が向きがちですが「人に対して行う行為である」ことを忘れないでください。介護福祉士が行う医療的ケアは「利用者の生活を支えるために必要な行為」であるため、介護福祉士の倫理を基本に据えて学習を進めていきたいと考えます。

医療的ケア（演習）	（全15回）	介護福祉士科	2年	通年
		担当教員	横山 みどり・真鍋 智美・矢野 由紀	

●授業概要

★この授業のねらい

「医療的ケア（講義）」が終了し、定期試験に合格した後に、実際にシミュレーターを用いて「喀痰吸引」「経管栄養」の演習を行います。実施手順に沿って安全・安楽に「喀痰吸引」「経管栄養」が実施できるようになることが目的です。

★仕上がり像

- 1 実施手順・方法を学び、シミュレータを用いて「喀痰吸引」「経管栄養の」一連の動作を一人で実施できる。
- 2 基本的な救急蘇生法を説明できる。

●授業内容

1	喀痰吸引の演習（口腔内・鼻腔内吸引の手順の確認）		
2	喀痰吸引の演習（気管内吸引の手順の確認）		
3	喀痰吸引の演習（口腔内吸引の演習）		
4	喀痰吸引の演習（口腔内吸引の演習・鼻腔内吸引の演習）		
5	喀痰吸引の演習（鼻腔内吸引の演習）		
6	喀痰吸引の演習（気管カニューレ内部吸引の演習）		
7	喀痰吸引の演習（気管カニューレ内部吸引の演習）		
8	経管栄養の演習（胃ろう経管栄養の手順の確認）		
9	経管栄養の演習（経鼻経管栄養の手順の確認）		
10	経管栄養の演習（胃ろう経管栄養の演習）		
11	経管栄養の演習（胃ろう経管栄養の演習）		
12	経管栄養の演習（胃ろう経管栄養の演習・経鼻経管栄養の演習）		
13	経管栄養の演習（経鼻経管栄養の演習）		
14	経管栄養の演習（経鼻経管栄養の演習）		
15	救急蘇生法		

●成績評価のしかた

演習（評価表）（90%）、演習への取り組み状況等（10%）の割合で総合的に評価します。

●教科書・参考図書

教科書：介護福祉士養成講座編集委員会編「最新 介護福祉士養成講座15 医療的ケア」（中央法規，2019年）

●履修へのアドバイス

- 1 100%の出席率が必要な科目です。
- 2 「喀痰吸引」の『口腔内喀痰吸引』『鼻腔内喀痰吸引』『気管カニューレ内部の吸引』、「経管栄養」の『胃ろう・腸ろうによる経管栄養』『経鼻経管栄養』の5項目の演習を各5回以上実施します。
- 3 演習では、学生同士協力し時間を有効活用してください。デリケートな物品が多いので丁寧にあってください。
- 4 技術面を磨くためには練習が必須です。自主的に練習する姿勢を求めます。
- 5 演習の評価基準は厚生労働省から提示されており、すべての項目を修得し的確に実施できることが求められます。
- 6 人に対して行う行為です。シミュレータを使用した演習の際も、声掛けや配慮を忘れずに取り組んでください。

介護福祉総論 (全45回)	介護福祉士科	2年	後期
	担当教員	織田 なおみ ・ 横山 みどり	

●授業概要

★この授業のねらい

国家試験受験に向けて、すべての科目を横断的に復習し、確実な知識の定着を目指します。与えられた問題を解くだけでなく、時代の変化に伴う制度や施策などに関する近年の動向について理解を深め、現場で役立つ知識を身に付けます。

模擬試験では、自分の力を客観的に捉え、苦手分野の克服につなげます。

★仕上がり像

- 1 すべての科目を復習し、国家試験受験に向けて得意分野・不得意分野を明確に捉える。
- 2 様々な練習問題を通して、より多くの知識を身につけることができる。
- 3 近年の制度や施策の動向について知識を身につける。

●授業内容

1	オリエンテーション	24	科目別復習（こころとからだのしくみ）
2	模擬演習 第1回（模擬試験（午前））	25	科目別復習（医療的ケア・総合問題）
3	模擬演習 第1回（模擬試験（午前））	26	模擬演習 第4回（模擬試験（午前））
4	模擬演習 第1回（模擬試験（午後））	27	模擬演習 第4回（模擬試験（午前））
5	模擬演習 第1回（模擬試験（午後））	28	模擬演習 第4回（模擬試験（午後））
6	科目別復習（人間と社会）	29	模擬演習 第4回（模擬試験（午後））
7	科目別復習（人間と社会）	30	科目別復習（人間と社会）
8	科目別復習（介護）	31	科目別復習（介護）
9	科目別復習（こころとからだのしくみ）	32	科目別復習（こころとからだのしくみ）
10	模擬演習 第2回（模擬試験（午前））	33	科目別復習（医療的ケア・総合問題）
11	模擬演習 第2回（模擬試験（午前））	34	模擬演習 第5回（模擬試験（午前））
12	模擬演習 第2回（模擬試験（午後））	35	模擬演習 第5回（模擬試験（午前））
13	模擬演習 第2回（模擬試験（午後））	36	模擬演習 第5回（模擬試験（午後））
14	科目別復習（人間と社会）	37	模擬演習 第5回（模擬試験（午後））
15	科目別復習（人間と社会）	38	模擬演習 第6回（模擬試験（午前））
16	科目別復習（介護）	39	模擬演習 第6回（模擬試験（午前））
17	科目別復習（こころとからだのしくみ）	40	模擬演習 第6回（模擬試験（午後））
18	模擬演習 第3回（模擬試験（午前））	41	模擬演習 第6回（模擬試験（午後））
19	模擬演習 第3回（模擬試験（午前））	42	苦手科目の復習
20	模擬演習 第3回（模擬試験（午後））	43	苦手科目の復習
21	模擬演習 第3回（模擬試験（午後））	44	苦手科目の復習
22	科目別復習（人間と社会）	45	総復習
23	科目別復習（介護）		

●成績評価のしかた

授業に課す課題(40%)、演習結果(40%)、授業の取り組み状況(20%)等で総合的に評価します。

●教科書・参考図書

教科書：介護福祉士養成講座編集委員会編 「新・介護福祉士養成講座1～16」（中央法規）

●履修へのアドバイス

介護福祉士にとって不可欠な知識を確実に身につけます。様々な科目を総合的に学習し、自分の得手・不得手をよく知り、より多くの知識を身につけてください。根気よく、反復学習することが大切です。

また、国家試験受験当日をイメージして模擬試験に臨むことは、集中力や平常心を保つトレーニングにもつながります。落ち着いて問題に向き合う習慣を身につけましょう。